

# 参 考 事 例 集 ( 資 料 編 )

参考事例集の3大学から報告いただいた際に提出された配付資料を掲載しています。

# 国際基督教大学における 学生学習意識調査・卒業時調査について

国際基督教大学 学務副学長

日比谷 潤子

2009/08/21 日比谷 潤子

1

## ICUの目標

- リベラルアーツ教育を通して ~ を育む  
こと

生涯学びつづけるための基礎的能力  
問題を見つける力と解決する力  
真実を探るための批判的思考力  
既成概念にとらわれず挑戦する柔軟な心  
深い専門性と広い教養

2009/08/21 日比谷 潤子

2

## 学生学習意識調査 (Student Engagement Survey)



- 目的： 学生自身の学習経験や成果を理解し改善すること
- 調査対象： 3年生
- 調査時期： 毎年4月 2005年4月開始
- 調査方法： 調査用紙を対象学生に配布(09年度からweb方式も)
- 調査時期： 2009年4月
- 回収率： 40.0% (回答者 210名/3年生 618名)
- 調査票： インディアナ大学高等教育センター作成の  
(毎年使用許可) National Survey of Student Engagement に基づいて作成
- 調査項目： 授業経験、特別教育活動、教育活動の成果、教員との交流、事務職員およびサービス、課外活動、学生同士の交流、全般的意見 (合計90問)

2009/08/21 日比谷 潤子

3

## 結果の概要



### 授業経験

- ・授業中ディスカッションに参加した： 98.0%
- ・プレゼンテーションをした： 96.5%
- ・グループプロジェクトをした： 95.0%
- ・コメントシートを利用した： 99.5%
- ・他のクラスで学習したアイデアや概念を利用した： 97.0%
  
- ・クラスで強調されている項目：

暗記	85.0%
分析	99.0%
統合	99.0%
批評	99.5%

2009/08/21 日比谷 潤子

4



以下の項目をどのくらいの頻度で行いましたか	よくそうした	時々そうした	一度もしたことがない
1. オフィス・アワーに教員を訪ねた (N=187)	13.9%	66.3%	19.8%
2. 教員に会って、課題について話し合った (N=187)	11.8%	57.8%	30.5%
3. 教員に会って、課題の成績について話し合った (N=188)	2.1%	17.6%	80.3%
4. 教員に会って、授業中取り上げられた考えやテーマについて話し合った (N=186)	10.2%	44.1%	45.7%
5. 教員に会って、将来の学習計画について話し合った (N=188)	10.6%	44.7%	44.7%
6. 教員と自分のキャリアや進路計画について話し合った (N=188)	10.6%	34.0%	55.3%
7. 課外活動関係で教員に会いに行った(クラブ、C-Week、ICU祭、オリエンテーションなど) (N=187)	12.8%	33.7%	53.5%
8. 教員とメールやその他のプログラムを使ってコミュニケーションした (N=187)	29.9%	60.4%	9.6%
9. クラスでMoodleやBlackboard等のソフトを使用した (N=188)	57.4%	42.0%	0.5%
10. 課題のためにインターネットを利用し、情報を得た (N=187)	89.8%	10.2%	0.0%
11. 教員に対するあなたの態度、姿勢はどんなですか (N=188)	A. 教員全員と知り合いになるうとする		7.4%
	B. 何人かの教員と知り合いになるうとする		72.9%
	C. 教員と知り合いになるうとしない		19.7%
12. ICUで受けたアカデミック・アドバイジングの質はどのくらいだったと思いますか (N=187)	A. 優れていた		15.5%
	B. よかった		40.6%
	C. 普通		39.6%
	D. よくなかった		4.3%

2009/08/21 日比谷 潤子

5

## 4年生卒業時調査 (Senior Exit Survey)



- 目的： 大学の今後のあり方や方策を探ること
- 調査対象： 卒業生(4年生) 2005年3月開始
- 調査時期： 毎年3月と6月
- 調査方法： 調査用紙を「卒業式用キャップ・ガウン貸出日」に配布しその場で回収
- 調査時期： 2009年3月
- 回収率： 73.2% (回答者 368名/卒業生 503名)
- 調査項目： 将来の計画、学部での経験、授業料、入学許可の方法 (合計17問)

2009/08/21 日比谷 潤子

6

## 結果の概要



### 将来の計画

- ・フルタイム雇用： 66.9%
- ・大学院又は学部、専門学校等への進学： 21.0%

### 学部での経験

- ・ICUの教育満足度 非常に満足： 44.6%
- 満足： 47.6%
- ・再度大学を選べるとしたら、またICUを選ぶか
- 絶対選ぶ： 32.8%
- 多分選ぶ： 49.9%

2009/08/21 日比谷 潤子

7

次にあげた能力や知識について、あなたの人生における重要度を(Ⅰ)に、これらの能力や知識が大学入学後どれ位変化したかを(Ⅱ)に記入して下さい。	Ⅰ 重要度				Ⅱ 変化			
	重要でない	ある程度重要	非常に重要	最も重要	弱くなった	変化なし	強くなった	非常に強くなった
地球規模の問題について理解する (N=358)	2.5%	31.5%	47.4%	18.7%	3.3%	17.5%	59.9%	19.2%
日本が直面している社会問題について理解する (N=358)	1.7%	22.9%	53.6%	21.8%	1.7%	21.2%	55.3%	21.8%
現在の問題を歴史的・文化的・哲学的視野で見る (N=359)	4.7%	29.0%	42.6%	23.7%	1.7%	22.3%	45.7%	30.4%
批判的に思考する (N=354)	2.0%	20.6%	37.6%	39.8%	0.8%	6.5%	44.4%	48.3%
分析的、論理的に思考する (N=359)	0.6%	12.8%	49.0%	37.6%	1.1%	10.9%	52.9%	35.1%
複雑なプロジェクト計画・実行 (N=358)	4.5%	33.0%	48.3%	14.2%	0.8%	33.8%	52.0%	13.4%
自ら新たなスキルや知識を修得する (N=355)	0.8%	19.2%	50.4%	29.6%	1.4%	21.1%	52.1%	25.4%
数値的手段の使用 (N=357)	12.3%	47.3%	32.5%	7.8%	6.2%	52.7%	30.3%	10.9%
科学や実験のプロセスを理解する (N=359)	18.4%	42.6%	29.2%	9.7%	5.8%	56.8%	28.1%	9.2%
コンピュータースキル (N=358)	2.2%	39.1%	48.9%	9.8%	0.8%	38.0%	48.6%	12.6%
口頭によるコミュニケーション (N=357)	0.3%	9.2%	50.4%	40.1%	1.4%	16.0%	55.5%	27.2%
対人関係能力 (N=357)	0.6%	7.6%	45.4%	46.5%	2.2%	18.2%	49.9%	29.7%
異文化・異人種に関する知識 (N=359)	0.8%	16.2%	48.5%	34.5%	0.6%	18.4%	47.6%	33.4%
異なる人種、国種、宗教の人たちと協働する (N=356)	2.0%	15.4%	46.1%	36.5%	0.8%	19.4%	46.9%	32.9%
芸術や科学に関する幅広い知識を得る (N=357)	1.4%	32.8%	41.5%	24.4%	0.6%	28.9%	51.5%	19.0%
芸術、文学、音楽、演劇などを鑑賞する (N=357)	3.9%	27.5%	46.2%	22.4%	2.0%	32.2%	43.1%	22.7%
語学力(英語) (N=356)	1.4%	16.0%	50.3%	32.3%	2.5%	14.0%	52.8%	30.6%
語学力(英語以外) (N=354)	8.2%	32.2%	42.7%	16.9%	3.4%	43.5%	36.2%	16.9%
文章表現力 (N=354)	0.6%	14.4%	57.9%	27.1%	1.1%	20.1%	58.9%	19.8%
自尊心や自信を高める (N=355)	4.8%	25.9%	47.6%	21.7%	5.1%	35.8%	44.5%	14.6%
自分自身(能力、興味、限界、人格)への理解 (N=358)	1.7%	14.2%	48.3%	35.8%	1.1%	21.2%	49.7%	27.9%
宗教的信念や確信をもつ (N=357)	24.4%	41.7%	23.2%	10.6%	5.0%	58.3%	28.3%	8.4%

8

# 慶應義塾大学SFCにおける コミュニケーション型授業評価

慶應義塾大学 総合政策学部  
玉村雅敏

1

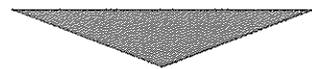
## SFC-SFSとは

SFC-SFS

= Site For Communication

among Students, Faculty and Staff

(学生・教員・職員の間をつなぐコミュニケーションの場(サイト))



学生・教員・職員の「コミュニケーションの場(サイト)」  
を提供することで、優れた教育環境・内容の構築を  
目指すもの

2

## 背景と変遷

- SFCでは、設立当初(1990年)より、教授法・教材の開発・発展を目的として「学生による授業評価(授業調査)」を、SFCに設置されている全科目の全履修者を対象に実施してきた。
- 2002年度には、この方針をさらに発展させ、ウェブ上の授業調査ならびに、授業改善のためのコミュニケーションツールとして、SFC-SFSの運用を開始した。
- 2007年度、カリキュラム改定によるメンター制度の創設に合わせ、より効果的な学習支援の実現を目指して、学生、教員、職員のコミュニケーション機能をさらに強化することとした。具体的には、ウェブ上の授業調査に加えて、以下の3つのコミュニケーションを支援する機能を充実させた。
  - (1) 授業に関するコミュニケーション
  - (2) 卒業までの学習・研究プランに関するコミュニケーション
  - (3) メンターとのコミュニケーション

3

## システムの設計思想

- 優れた教育環境・内容の構築を目指す「コミュニケーションの場」としての役割を継承・発展させる。
- 日常的なコミュニケーションの中から情報を得ていき、それぞれの役割に応じて改善をしていく。
- 3つのコミュニケーションを支援する。
  - (1)【授業】授業に関するコミュニケーション
  - (2)【プラン】卒業までの学習・研究プランに関するコミュニケーション
  - (3)【メンター】メンターとのコミュニケーション

4

# (1)【授業】授業に関するコミュニケーション

## ① 「授業調査」でのコミュニケーション

- 授業の進行にあわせた授業調査を行う。
- コミュニケーションを通じて授業改善の情報入手を行う。
- いま履修している学生にとって必要な改善を実現する。

5

## <概要>

- 学期初め(第1～2週):「履修希望理由・授業に期待すること」の確認(オプション)
  - 学生は、初回の課題として「履修希望理由・授業に期待すること」を提出できる(記名式)。
  - 教員は、記入されたコメントへの回答義務は特にないが、その情報+ $\alpha$ を用いて、その学期の履修者にあわせて、授業のあり方を考えることが可能になる。
  - 履修者選抜等で同様の調査を行っている場合は省略可能(シラバス作成時に設定)
- 1ヶ月後(10日間程度):「授業改善のための授業調査」の実施(全授業)
  - 学生は、「今後、期待すること」を確認・記入する(無記名)。授業内容と授業方法の両面の指摘を促す
  - 教員は、学生コメントを踏まえ、改善事項などを確認し、学生へのコメントを行う。
  - ※ 結果は塾内・CNSアカウント保持者に公開。
- 随時:「オプション調査」と「ディスカッションエリア」の活用(オプション)
  - オプション調査: 随時、教員が任意の設問を設定して調査を行うことが出来る。
  - ディスカッションエリア: 随時、授業の関係者(教員・学生・TA/SA)が話し合うことが出来る。(デフォルトは「利用不可」になっており、教員が「利用開始」にすることで利用可能)
- 学期末:「学期終わりの全体調査」での相互点検(全授業)
  - 学生は、主に、履修前に掲げた目標が達成できているかで自己評価を行う(無記名)。今後履修する学生の履修プランニングと、カリキュラムの質向上に役立つ情報を残す。
  - 教員は、学生コメント等を参考に次年度以降の授業のあり方を考え、全体を総括するコメントを行う。
  - 調査項目は、「A.全科目共通項目」と「B.科目群共通項目」の2種類を設定する。
    - 「A.全科目共通項目」は、学生自身の自己点検と、今後の履修者への助言を想定した設問を設定する。
    - 「B.科目群共通項目」は、科目群ごとに、カリキュラムにおける趣旨を踏まえた設問を設定し、科目群の目的や意図が達成できているかを点検できるようにする(授業内容とカリキュラム全体の改善に活用)
  - ※ 結果は塾内・CNSアカウント保持者に公開。

6

## ② 「授業ページ」でのコミュニケーション

- 学生・教員・職員ごとに、それぞれの役割に対応した「授業ページ(授業支援のポータルページ)」を提供する。
- 授業ページを通じて、日常的に授業関連情報の提供・入手や、学生・教員・職員間のコミュニケーションを可能にし、よりよい授業の実現を目指す。

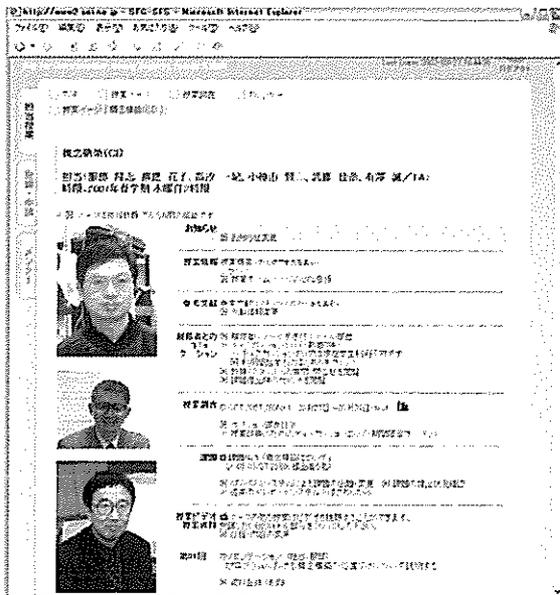
7

### <概要>

- 授業資料・ビデオの履修者への提示(ファイル・URLの登録)
- お知らせ、参考文献情報、授業予定変更などの掲示
- 学生へのメール一斉送付・送付履歴確認
- 「課題」の出題と回答。それに対する履修者と教員が参加するレビュー。
  - 「課題」の出題と回収が可能
    - 任意の時期設定による課題出題と回収が可能。
    - 各種ファイル形式での課題回収とダウンロードが可能。提出者リストの表示・ダウンロードが可能。
    - 学事担当による印刷サービス(印刷時期などに制約あり)
  - 回答を履修者同士でレビュー可能(オプション:閲覧開始時期は×切前・後の設定可能)
  - 回答に対して学生・教員・TASA がコメント可能(オプション:コメント有無の設定可能)
  - 学生の回答やコメントを他の学生の学習素材としても利用可能  
(※ 閲覧範囲は教員、TASA、履修者)
- 授業に関するアンケート「オプション調査」の実施
- 「ディスカッションエリア」を利用した双方向のコミュニケーション(オプション)

8

# 「授業ページ」の構成



- ⇒お知らせ
- ⇒授業情報
  - 授業概要 / シラバス
  - 授業ホームページのURL登録(教員・TA/SA)
- ⇒参考文献
  - 文献情報変更(教員・TA/SA)
- ⇒履修者とのコミュニケーション
  - 履修者にメールを送付(教員・TA/SA)
  - メール履歴
  - ディスカッションエリア(教員・TA/SA)
  - 教員/スタッフへの質問・問合せ閲覧(教員・TA/SA)
  - 課題提出時のコメントを閲覧(教員・TA/SA)
- ⇒授業調査
  - 履修希望理由・授業に期待すること(学期はじめ)
  - オプション調査設定(教員・TA/SA)
  - 授業改善のための授業調査(開始1ヶ月後)
  - 学期終わりの全体調査(学期末)
- ⇒課題
  - 課題の出題・変更(教員・TA/SA)
  - 課題の提出状況確認(教員・TA/SA)
- ⇒授業内容
  - 日程・内容の変更(教員・TA/SA)
    - ・ シラバスは変更不可(学期前に学生に提示するもの)
  - 資料登録・削除(教員・TA/SA)
  - ビデオ登録

各授業ページ(教員用)

9

## (2) 【プラン】卒業までの学習・研究プランに関するコミュニケーション

### ① 「履修プラン」に関わるコミュニケーション

- 授業関連情報の蓄積と、多角的な検索方法を提供し、履修プランづくりを支援する。
- 今年度の履修プランづくりと来年度の履修プランづくりをサポートする。
- 学生自身の「MY研究プロジェクト」との関係から履修プランづくりを促す。

10

## <概要>

- 「履修プラン(今学期)」
  - 講義概要やシラバスなどを参考に、その学期の履修プランニングを行う(「MY時間割」に授業を登録していく)
- 「履修プラン(次学期以降)」
  - 授業概要(コア部分)を参考に、翌年度の履修プランニングを行う。

※ 「授業相互の関係性(必須・推奨・関連)」「授業調査結果」「学習パターン」などの情報を提供し、履修・学習プランニングの支援を行う。

11

## ② 「MY研究プロジェクト」に関わるコミュニケーション

- (前提)SFCでは、学生も自ら「研究プロジェクト」を掲げて推進をする「研究プロジェクト」中心の教育を行っている。(研究会などに限らず、それぞれが掲げて、推進をする)
- SFC-SFSでは、学生自身の「MY研究プロジェクト」のプランニングと、それに関わるコミュニケーションを支援する。
- 学生の成長に合わせて「MY研究プロジェクト」も成長していくものであり、年1回程度、「MY研究プロジェクト」の再定義や、対応した「履修プラン」の設定などを行う。

12

### (3) 【メンター】メンターとのコミュニケーション

#### ① 「卒業プロジェクト」へ向けたコミュニケーション

- メンター教員は、学生の「MY研究プロジェクト」を定期的にチェックし、学習・研究上のアドバイスをを行う。
- 必要に応じて、学生とメンターとで面談を行い、各自の「履修プラン」を共にレビューする。
- 「卒業プロジェクト」へと前進できるかを判定するための情報共有を行う。

13

### 参考：SFC-GC、e科目等履修生制度、h科目

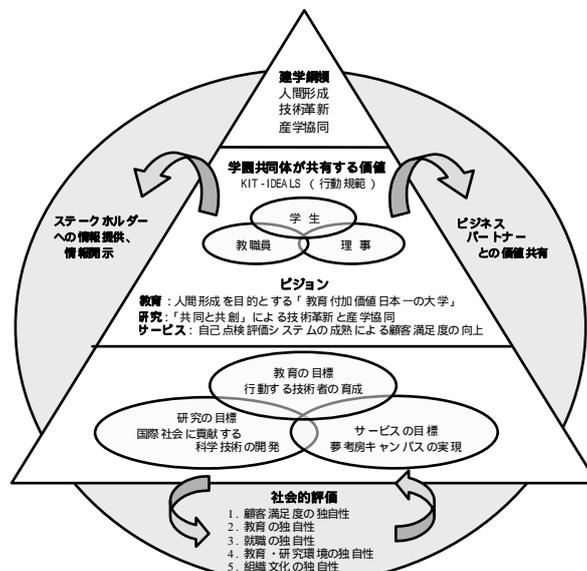
- SFC-GC (SFC Global Campus)
  - 大学からの情報発信および、大学が社会と共有する教育資源としてSFCの教員による教育コンテンツを約50科目選択して社会と共有する。
  - 2002年春から運用開始
- e科目等履修生制度
  - 大学の正式な単位取得が可能(有料)
  - GCの公開コースを利用するが、e科目等履修生として課題提出や指導・助言などが受けられるのは登録学生のみ。
  - 審査で許可を受ければ通学課程の学生も履修可能
  - Double Degree Programでの利用など、海外からの学生も受講可能
  - 2005年度よりパイロットプログラム開始・2006年度より正式導入
- h科目(仮称)
  - 「対面/遠隔」を組み合わせたハイブリッド方式の学習方式
  - 遠隔:リアルタイムでのWEB会議授業・e科目による授業履修(オンデマンド)
  - 2009年春から大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースでの実験運用開始
- その他
  - SFC-GC Internal
    - 履修者が重複する補講ビデオの学内公開
    - 資料配布、課題、コミュニケーションなどの支援システムとしての利用

14

# 金沢工業大学における アンケート調査と教育改善

金沢工業大学  
環境・建築学部 教授  
教育点検評価部長  
久保 猛志

## 金沢工業大学のビジョン



## 金沢工業大学の建学綱領

高邁な 人間形成  
深遠な 技術革新  
雄大な 産学協同

## 教育理念

科学・工学技術教育を通し、  
国際社会における日本人とし  
ての誇りと使命感を養い、ま  
た次代の技術革新を担い、今  
後の発展を継承し得る人材を  
育成すること。

## 学生諸君に何を求めるのか - 教育目的

入学時の個々の学生の知識・知能・思考力・表現力・行動力等々のレベルの如何を問わず、4年間の学習・教育によって、

### 自ら考え行動する技術者

として社会で活躍できる人材にまで自らが向上することであり、更に、社会においてその力を存分に発揮することである。

卒業生諸君が、それぞれの活動分野において、**技術者として認められ、活躍していることが**、本学における学習・教育の妥当性・正当性を保証することになる。

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

5

## 教育実践の軌跡 - 学生が主役の大学を目指して

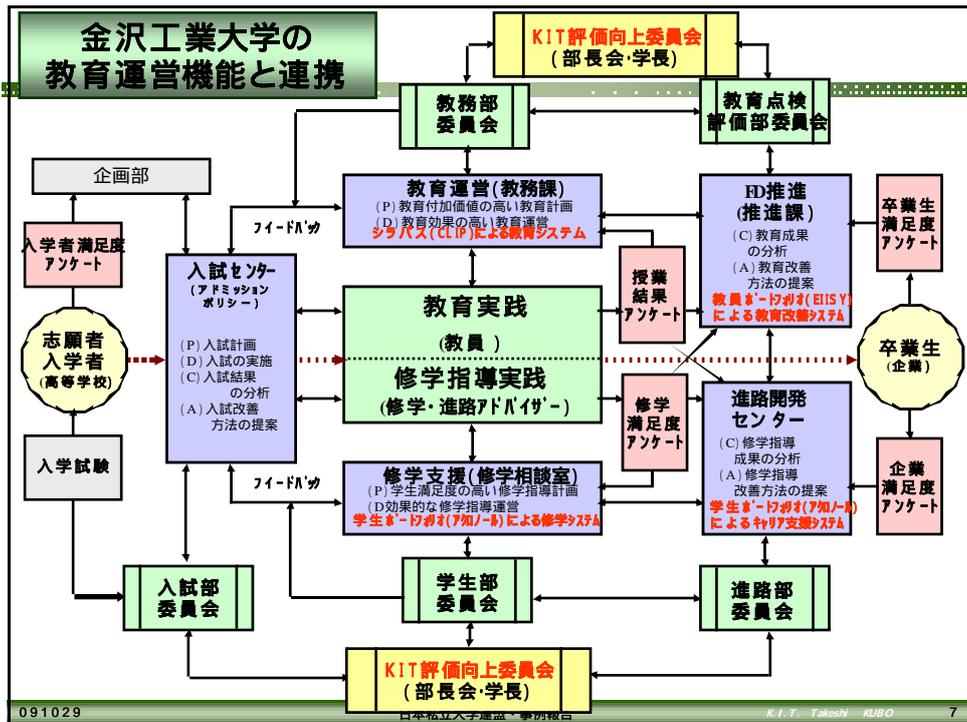
- 穴水湾自然学苑における人間形成教育
- 高度情報化社会の到来を見越した先駆的な情報処理教育
- C A I を利用した基礎学力の補完教育
- ネイティブ・スピーカーによる少人数英語教育
- 情報活用能力を育成する図書情報技術教育
- 学生の素質を伸ばす褒めの教育（学長褒賞制度）
- 基礎的実技能力を付与する工学基礎実技教育
- 工学基礎実技との一貫性を体系化した工学専門実技教育
- 問題発見、課題探求型教育による能力の総合化を目指す工学設計教育（プロジェクトデザイン教育）
- 目的指向型カリキュラムに基づく専門コア教育
- 自己成長型教育アクロノールプログラム
- 学生の自主的な創造活動を支援する夢考房活動（課外活動の支援）
- 年間300日、自己実現に向けて自主的・主体的に活動ができる夢考房キャンパス
- 気づき、努力、自信、意欲を引き出すKITポートフォリオシステム

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

6



## 金沢工大で実施しているアンケート

### 1. 金沢工業大学(KIT)で実施している主なアンケート

#### ■KITで実施しているアンケート

調査名	目的・特徴など	対象・方法など
総合アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>KITを取り囲む関係者から、KITに対する評価、満足度を聞いて現状を把握し、改善に向けたヒントを見つけたことを主目的としている。</li> <li>関係者にはできるだけ共通の質問をして各属性間の比較を見ることができ、経年変化を見ることができるよう調査を設計している。</li> <li>無記名式の全数調査とし、毎年定期的に実施して定点継続的な調査と位置づけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者：在学生(新入生～4年生)、卒業修了生、教員、職員、卒業生が入社した企業(企業は3年毎)</li> <li>回収数：07年は全体で6,221の回答を回収</li> <li>調査方法：調査票を配布、記入後に回収(在学生、教員、職員へは学内で配布・回収、卒業修了生と企業へは郵送で配布・回収)</li> <li>調査時期：毎年2月から4月にかけて実施</li> <li>その他：無記名式として実施</li> </ul>
授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生から各学期に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、KIT全体の教育改善につなげていくことを主目的としている。</li> <li>全員から全科目(686科目)に対する評価を聞き、学部別、学科別、学年別、科目区分別の比較を行う。また、経年変化も確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者：在学生</li> <li>回収数：07年はのべ102,055の回答を回収</li> <li>調査方法：春学期、秋学期、冬学期の各学期の各授業科目の最終日に実施</li> <li>その他：記名式として実施</li> </ul>
グループインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合アンケート」「授業アンケート」などで構築した仮説を検証するための定性情報を得ること、定量調査では見えない学生の考えや価値観などを把握することを目的とする。</li> <li>定期的に行っているわけではないが、今後はこのような定性情報からのヒント発見が重要になると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者：在学生からその時々調査目標に従って1グループ10人程度の学生に協力を依頼</li> <li>実施人数：のべ60人</li> <li>これまでの属性例：「プロジェクト参加学生」「高専からの進学者」「特定の学科の学生」など</li> </ul>

## 2.KITの情報収集活動の基本となる考え方

### ■KITが継続的にウォッチしていくべき情報の整理

個別調査の見直しの際に、KITが継続的にウォッチしていくべき情報を整理した。(内容は2002年の段階のものであり、変わってしまっているものもある)

既存調査の見直しや国内外の他大学事例、研究結果などの分析より、KITに限らず大学が調査し継続的にウォッチしていくべき項目として、大まかに以下記の3つの調査に分けることができるものと思われる。

①大学の機能評価 (継続して充分かどうかきちんとできているかどうか?)

②大学自体の評価 (総合的に見て満足できるものかどうか?)

③公開され、他の大学と比較可能な評価測定情報

また、それらの項目をグループダウンすると下表のようにまとめることができる。そして、対応する調査を「総合アンケート」と「授業アンケート」で分類した。全ての項目を一律で実施することは難しいが、下記に挙げたような項目を大学の運営・経営指針として定量的に時系列でチェック(Check)し、各々の向上を目指す計画(Plan)と実施(Do)というサイクルを確立することを目指すべきであると思われる。

大項目	項目	備考	満足する調査	
大学の機能評価	ハード面評価	建物	建物の良し悪しではなく機能を評価	総合アンケート
		設備	設備の良し悪しではなく機能を評価	総合アンケート
		インフラ	ネットワークなどの評価 (IT設備)	総合アンケート
		その他のハード・環境	大学周辺環境をハードとして評価	総合アンケート
		ハード面の総合評価	ハード面の総合評価	総合アンケート
	ソフト面評価	組織と自評価	各自自体の評価と学生の満足度	授業アンケート
		ゼミ・卒業評価	各自自体の評価と学生の満足度	授業アンケート
		実験・実習評価	各自自体の評価と学生の満足度	授業アンケート
		個別カリキュラムの位置づけ	全体の中で特徴的であった授業、好きな授業・役立った授業などの評価	総合アンケート
		授業以外のカリキュラム	学生からの評価と満足度	総合アンケート
大学の経営	関係者の満足度	専業・入学生 (専業主)	専業主 (専業主) から見たKITの評価 (保護者も含む)	総合アンケート
		専業主 (専業主)	KITの評価を通して見るKITの評価 (保護者も含む)	総合アンケート
		人材輩出 (企業)	KITの評価を通して見るKITの評価	総合アンケート
		社会 (地域・社会一般)	周辺社会からのKITの評価	公開可能な調査
		職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
	具体的な評価測定	職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
		職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
		職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
		職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
		職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート

## 3.総合アンケートの設計に関して

### ■質問項目の考え方

2003年に前項の考えを一步進めて、下記のような観点から総合アンケートの見直しを行った。

ポイント	考え方
対象者の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 良い大学であるためには「学生の満足度」を向上させるだけではなく、教職員には良い職場であり、企業・地元にも良い大学である必要がある。それらの考えをもとに利害関係者(ステークホルダ)を整理した。</li> <li>● KITのステークホルダを「高校生(とその保護者)」「在学生(とその保護者)」「卒業生」「教員」「職員」「企業」「高校教員」「地元地域」と位置づけ、その満足度を測ることを主目的とした。</li> </ul>
質問分野の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査項目を洗い直して「KITの機能面の評価」「KITの満足度」「社会が求める人材像」という3つの質問群に整理し、結果を将来的な改善に結びつけやすいようにした。</li> <li>● 主に在学生に聞く「KITの機能面の評価」に関しては、「施設・機能・サービス」「授業」「学習環境や学習支援」「学生生活」「就職・進学支援」という5つの領域で構成した。</li> </ul>
結果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートは「聞きっぱなしにしないで協力者にフィードバックする」という基本的な考えに基づき、「学生用(ネット上で公表)」「企業用(協力企業に郵送)」も作成している。</li> <li>● 企業に対してのフィードバックは、大学の姿勢を示す有効な機会になっているものと思われる。</li> </ul>

### ■対象者と質問内容の関係

対象者と聞く内容は下記の通りに整理し、各々が比較できるようにした。

対象者	KITの機能面の評価					社会が求める人材像		備考 (独自の質問など)
	施設・機能・サービス	授業	学習環境や学習支援	学生生活	就職・進学支援	KITの満足度	社会が求める人材像 現在の自分の能力	
新入生 (入学直後)	-	-	-	-	-	○	-	入学前、入学後の希望と聞く
1年生	○	○	○	○	-	○	-	○
2年生	○	○	○	○	-	○	-	○
3年生	○	○	○	○	○	○	-	○
4年生 (卒業・修了直前)	○	○	○	○	○	○	○	○
卒業・修了生 (卒業して1週間以内)	○	○	○	○	○	○	○	○
教員	○	○	○	○	○	○	○	○
職員	○	○	○	○	○	○	○	○
企業(1年に一度実施。過去4年間に卒業生の人材があった企業)	-	-	-	-	-	-	○	○

## 4.授業アンケートの設計に関して

### ■質問項目の考え方

2006年に調査内容の整理をして質問項目の見直しを行っているが、その際には下記のような観点で見直しを行った。

ポイント	考え方
受講の流れによる整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各科目の受講の流れを整理して、授業改善に役立てやすいデータを収集する。</li> <li>● 「受講前」「受講当初」「受講中」「受講後」というフェーズに分けて質問を考えた。</li> </ul>
質問の内容による整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問を内容によって整理して重複を避け、できるだけ少ない質問で広い範囲を開けるようにした。</li> <li>● 大まかには「授業内容」「授業支援」「学生の姿勢」「教員の姿勢」「総合満足度」に分けて質問を考えた。</li> </ul>
学生と教員の対比	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでは学生の取り組み姿勢だけを聞いていたが、「教員の姿勢」を聞くことで学生と教員の両者の姿勢を比較できるようにした。</li> <li>● また、「教員の姿勢」を聞くことで満足度に埋もれがちな「業務科目」の把握もできるようにした。</li> </ul>

### ■現在の質問内容

上記の流れと内容の整理から質問を下記のように考えた。

	質問内容	流れ	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

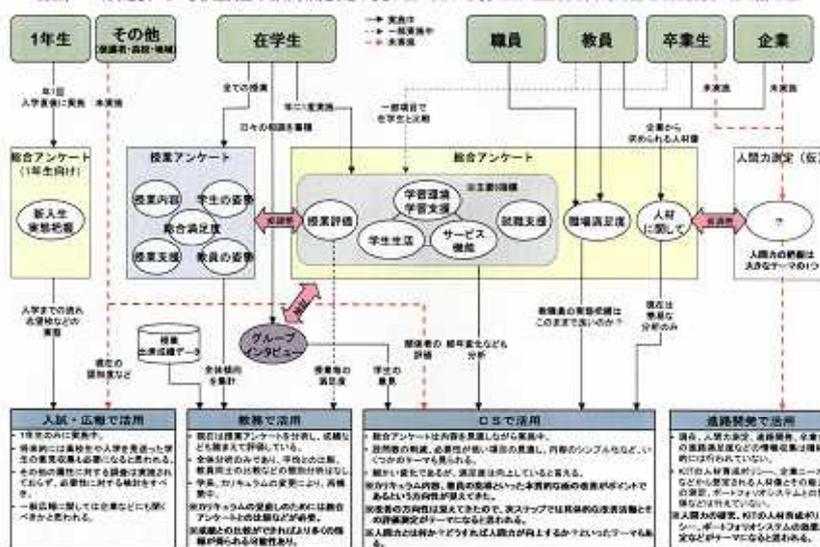
### ■分析方法

主な集計・分析方法は下記の通り。

- 単純集計
- 単年比較
- 学年毎比較
- 学年毎、学期毎比較
- 同一学生群の追跡比較
- 学部別比較
- 学科別比較
- 科目区分別比較

## 5.主なアンケートの位置づけ

現在、KITで実施されている各種調査や情報収集をまとめた下記のようになる。(上段が調査対象者、中端が調査・情報収集方法、下段が活用・活用先)



## 教育フォーラム

- 第1回：平成16年7月21日
  - 教育フォーラムの開催について
  - 「人間と自然」教育の取り組み
- 第4回：平成17年7月20日
  - 学務運営に関する改善提案
  - 人間力を基本とした学習・評価システムの改善提案
- 第5回：平成17年8月17日
  - **KIT総合アンケート調査結果**
- 第9回：平成18年8月9日
  - 平成17年度授業調査報告書抜粋
- 第12回：平成18年11月15日
  - アカデミックハラスメントについて
  - 学生の自殺について

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

13

- 第18回：平成19年11月19日
  - 技術者倫理教育 - 大学全体の取り組み
- 第20回：平成20年8月21日
  - **平成19年度「授業アンケート」と「総合アンケート」によるKIT在学生の実態分析結果**
- 第21回：平成20年12月10日
  - 平成20年度KIT-FD研修会より『学習意欲を高めるための改善案：実施報告』
- 第23回：平成21年6月24日
  - 専門基礎学力増進に関する取り組み報告
- 第24回：平成21年9月24日
  - **平成20年度「グループインタビュー」と「総合アンケート」によるKIT在学生の実態分析結果**

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

14

平成18年度  
「授業アンケート」と「総合アンケート」による  
KIT在学生の実態分析結果

2007/08/23 KIT教育フォーラム

有限会社 アイポイント 池田 晋

◆H18年度の授業満足度

2

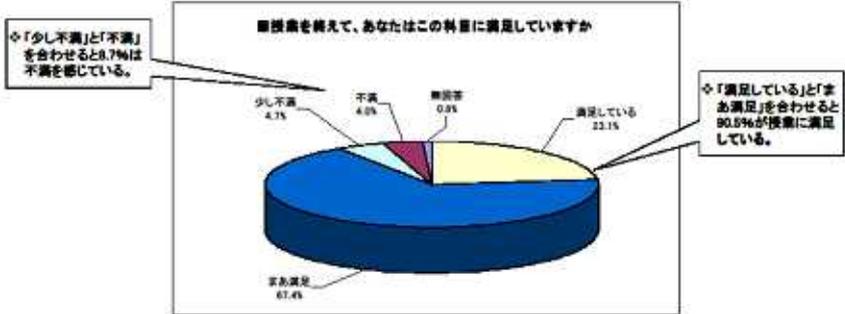
授業アンケート【記名式】において  
何割の学生が「授業に満足している」と回答しているか？

■授業アンケートの概略

対象者	KIT在学生(総回収数: 102,055件) 1年次生 48,302件(47.3%) 2年次生 32,727件(32.1%) 3年次生 19,567件(19.2%) Sクラス 1,439件(1.4%)
実施概略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施期間: 各学期の各授業科目の最終日に実施</li> <li>● 実施方法: 科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生代表が回収し、大学に提出</li> <li>● 学籍番号を記入する記名式</li> <li>● 平成15年度から集計を実施。ただし、平成17年度に調査設計を変更している。</li> </ul>
内容概略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学生の受講姿勢」「授業支援の評価」「授業内容の評価」「教員の姿勢評価」「総合満足度」の5分野</li> <li>● 上記の分野で11の質問をし、ほとんど4択で回答を得ている</li> </ul>

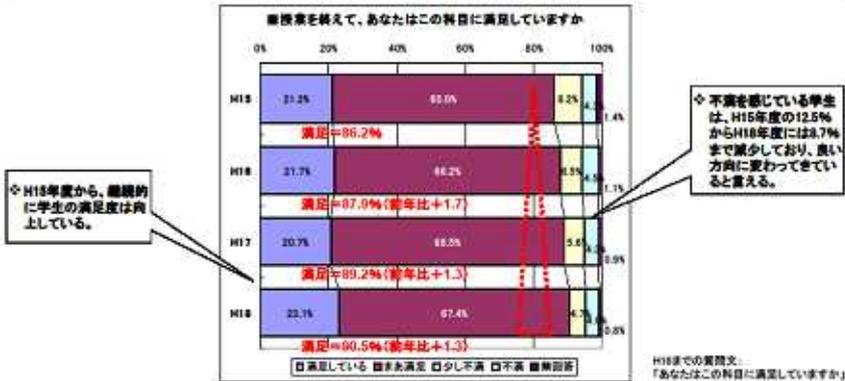
◆H18年度の授業満足度

学生の90.5%は「授業に満足している」と回答しており、満足度は非常に高いと言える。



◆授業満足度の経年変化

授業に不満を感じている学生は年々減少し、良い方向に向かっていると見える。

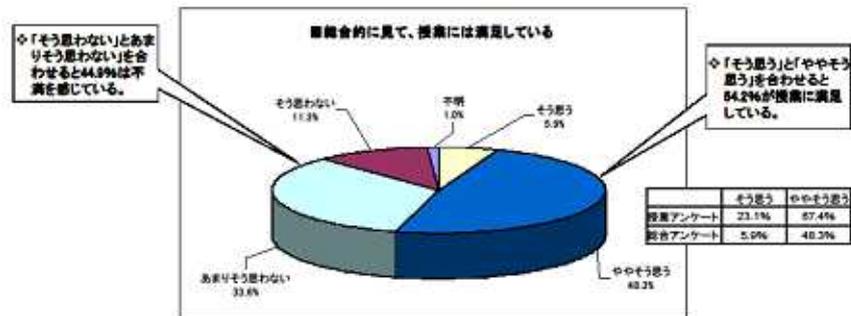


**総合アンケート【無記名式】において  
何割の学生が「授業に満足している」と回答しているか？**

**■総合アンケートの概要**

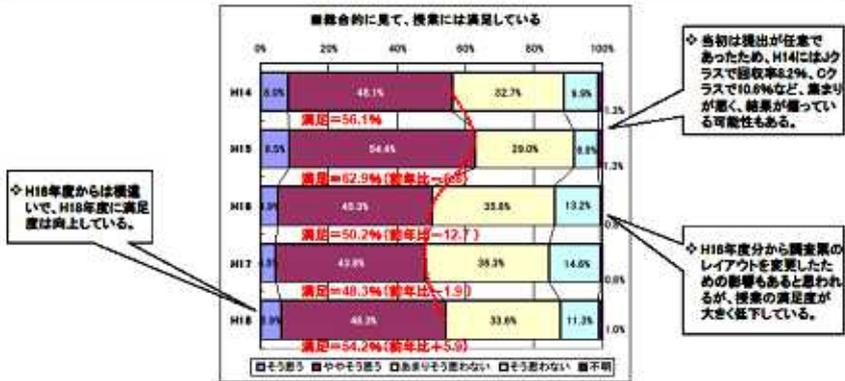
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象者：在学生、卒業・修了生、教職員(総回収数：6,221件)</li> <li>● 在学生回答者：新入生：1,642人、1年次生：1,505人、2年次生：1,267人、3年次生：768人、Sクラス：669人</li> <li>● 概略回収率：新入生～3年次生(現4年次生)の4学年を合わせると5,182人であり、5月1日段階の在籍数(6,892人)から考えると75.2%の回収率となる。</li> </ul>
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施期間：2007年2月～4月</li> <li>● 実施方法：1年次生はオリエンテーションで配布して回収ボックスで回収し、その他は担当教員に配布して各クラスで回収した。</li> <li>● 無記名式</li> </ul>
内容概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「授業」「学習支援」「学生生活」「就職・進学支援」「サービスや機能」の5分野</li> <li>● 上記の分野で最も多い学年では約200項目の質問をし、ほとんど4択で回答を得ている</li> </ul>
授業アンケートとの差	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業アンケートは「記名式」、総合アンケートは「無記名式」</li> <li>● 授業アンケートは各学期の最終授業で実施するためタイムリーな評価となるが、総合アンケートは学年の終わりに実施するため、記憶で評価することとなる</li> <li>● 授業アンケートはほぼ全員から回収するが、総合アンケートは全員回答ではない</li> <li>● 授業アンケートは1人が履修した全科目について各々評価するが、総合アンケートは1人が1枚で全体に対しての評価を行う</li> </ul>

**学生の54.2%は「授業に満足している」と回答している。  
授業アンケート【記名式】の90.5%と比べると  
非常に大きな開きがある。**



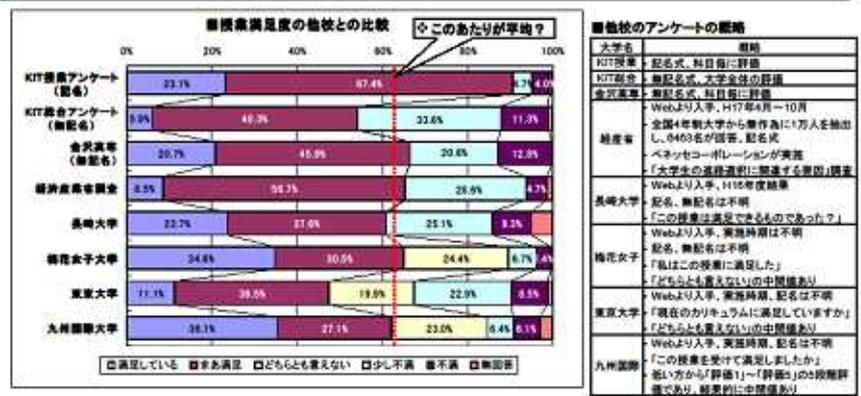
◆授業満足度の経年変化(総合アンケートより)

調査票の変更もあるが「総合アンケート」の授業満足度はH16年度に大きく低下し、今回はやや上昇している。ただし、いずれの年も5～6割は授業に満足しているようである。

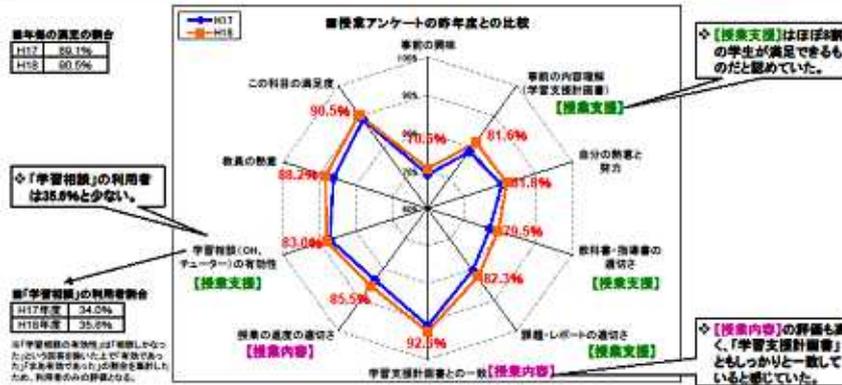


◆他校、他のデータとの比較

実施条件や聞き方は異なるが、他校の事例などと比較すると、9割以上が満足しているという結果は突出しており、【記名式】の影響が大きいものと考えられる。

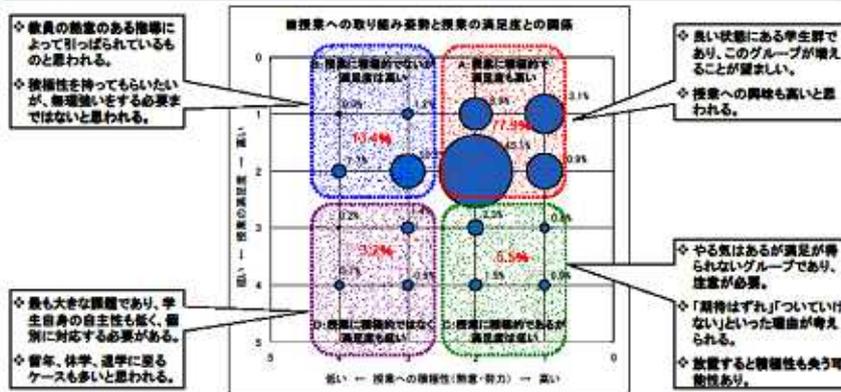


**【授業内容】 【授業支援】 の評価も全体的に高く、  
全ての項目で昨年度の評価を上回っていた。**

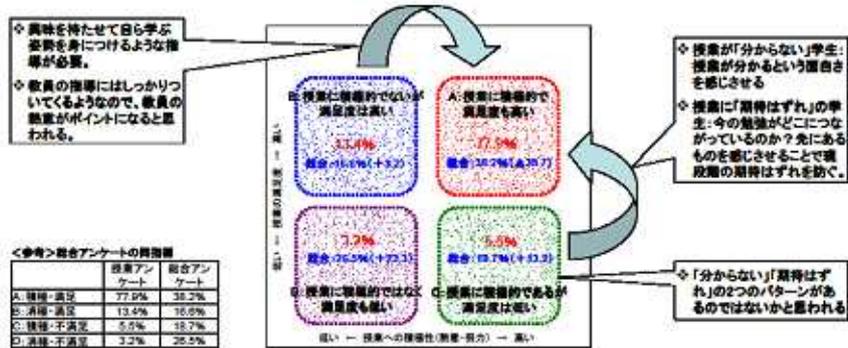


- ◆ 全般的に高学年の方が授業の評価が高く、1~2年次生は受講前に授業に興味を持っていない学生が多いと言える。
- ◆ 1年次生から2年次生にかけては「興味を持たせる」ことが重要であり、2年次生以降は「興味を満たす」ことが重要になる。
- ◆ 学部別には「環境・建築学部」が最も充実しており、次いで「工学部」「情報フロンティア学部」の順であった。
- ◆ 「工学部」は学科による差が小さいが、「環境・建築学部」では「建築学科」、「情報フロンティア学部」では「生命情報学科」の満足度が高かった。
- ◆ 科目区分では「専門プロジェクト」に対する興味が非常に強く、授業支援や授業内容なども他の科目には見られない評価の高さであった。

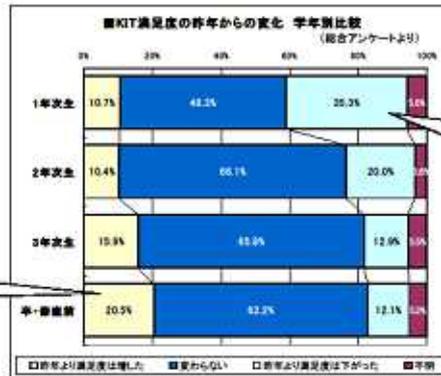
8割の学生は「授業に積極的で満足度も高い」状態であったが、2割の学生は何らかの課題を抱えていそうであった。特に「やる気はあるが満足が得られない」という学生が5.5%いた。



課題がある学生には「自ら学ぶ姿勢がない」「授業に期待はずれ感がある」といった状況がありそうであり、これらへの対策としては「興味を持たせる」というフォローが必要と言える。



授業ではなく、KIT全体の満足度を見ると、  
1年次生は入学前と比べて大きな期待はずれを  
感じていると言える。

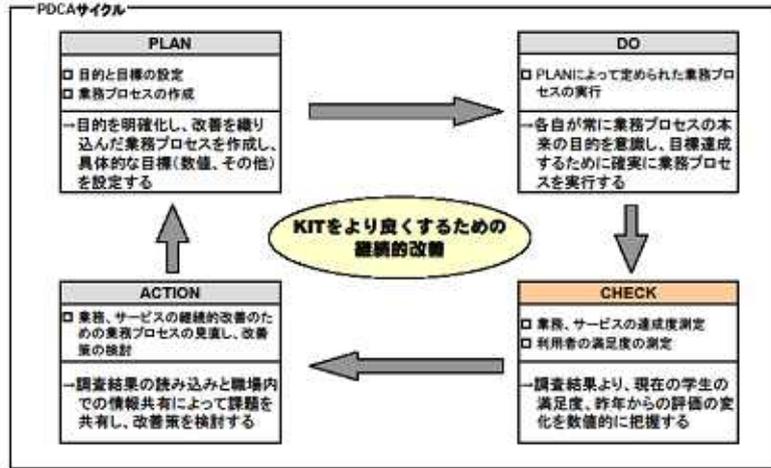


◇高学年ほど前年より満足度が上がったという意見が多かった。

◇「1年次生」には「入学前の期待と比べてどうでしたか」と聞いた。  
◇「1年次生」は大きな期待はずれを感じていると言える。

◆今後の改善案、方向性

テーマ	改善案・方向性
授業に興味を持たせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学生に「事前に興味を持たせる」ための施策を検討、実施する。</li> <li>◇1～2年次生には「興味を持たせる」ことが重要で、3～4年次生には「興味を満たす」ことが重要になる。</li> </ul>
1年次生の期待はずれをなくす	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇1年次生の「期待はずれ」の実態と要因を把握し、対処する。</li> <li>◇「パンフレットと基礎的授業との乖離」「授業説明やセミナーなどの問題」「授業の中で先にあるものを見せることが出来ていない」といった要因が考えられる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇良い状態にある事例(科目では専門プロジェクト、学科では進修など)を研究することで、改善のヒントを探し出す。</li> <li>◇「学習相談」の評価を聞き取り、必要に応じて改善を行って利用度を上げる。特に低学年での利用促進策を検討する。</li> <li>◇「授業アンケート」の満足度と「総合アンケート」の満足度の違いに関しての分析を行う。一部を無記名として実施するなどの試験的な取り組みも考える。</li> <li>◇課題を抱えていると思われる約2割の学生の実態を把握し、対処方法を検討する。</li> </ul>



平成19年度  
「授業アンケート」と「総合アンケート」による  
KIT在学生の実態分析結果

2008/08/21 KIT教育フォーラム

有限会社 アイポイント 池田 晋

## ◆授業アンケートから分かったこと

9

### 【視座階級の授業に対する満足状況】

- 92.1%の学生が授業に満足しており、サポートツール類などに対しても8割が満足していた。
- 授業満足度をはじめとして、ほとんどの項目で年々評価が上がり、今まで最も良い評価となった。特に今回は「事前の興味」が強くなっていた。
- 1年次生から2年次生にかけてモチベーション低下があるが、3年次生では学習面で非常に忙しく、充実している状況がうかがえ、4年次生で教員との接点が増加している。
- 同一学生群の変化を見ると、基本的には学期、学年が進むほど充実感が増しているが、入学直後から1年間はやや気のゆるみも感じられ、モチベーションが低下している。
- 「環境・建築学部」が全般的に授業を高く評価しており、特に「授業への事前の興味」は学部間の差が大きく、「環境・建築学部」の高さが目立っていた。

### 【授業満足度の構造】

- 学生にとっては授業だけでなく、学習相談も教員の熱意を感じる重要な機会となっていた。
- 「興味」と「事前の内容理解」には関係性があるため、学生に興味を持たせるためには最初の授業での説明や学習支援計画書などが重要と言える。
- 低学年ほど「興味と事前理解」が低いことから、新入生の最初の授業の内容説明には更に力を入れる必要があると言える。
- 満足度を左右する最も大きな要因は学習相談なども含めた「教員の熱意」である。また、影響はやや小さいが、「授業の進め方」と「興味と事前理解」も影響していることが分かった。
- 学習につまずいている学生が学習相談を受けているわけではなく、学習相談を受けている学生はそこから教員の熱意を感じており、最終的な授業の満足度も高いと言える。

## ◆授業の満足度のまとめ

10

- ❖ 学生の満足度は年々増しており、今回は特に「事前の興味」が強くなっているなど、基本的には良くなる方向に向かっており、緊急で対処すべき点はないと言える。
- ❖ しかし、現在の「授業の満足度」は「学生自身の熱意や努力」といった自らの行動によって得られているものではなく、「教員の熱意」に大きく影響を受けているという状況であり、学生自身に自律性がなく、教員に導かれるままになっていると考えられる。(ただし、限られた教員の中での教員的な熱意による偏見であり、更に学生の実態把握を続け、満足度が上がる構造を調べていく必要があると言える。)



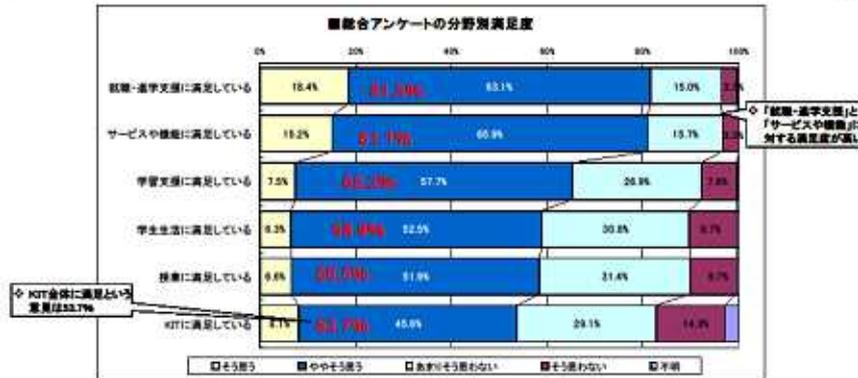
「教員の熱意」によって9割の学生が授業に満足しており、その満足度が年々高まっていることは良い状況と言える。

ただし、

「教員の熱意と導きで学生に学ぶ楽しさを感じさせ、各自の才能を引き出し、学生自身が各自の達成感によって満足を得て自律的に次のステップに進む」といったサイクルに変えていくことも必要ではないかと思われる。

◆各分野の満足度

「総合アンケート」では「授業に満足している」という意見は58.5%にとどまり、記名式の「授業アンケート」の92.1%とは30ポイントの差があった。



◆科目別の満足度

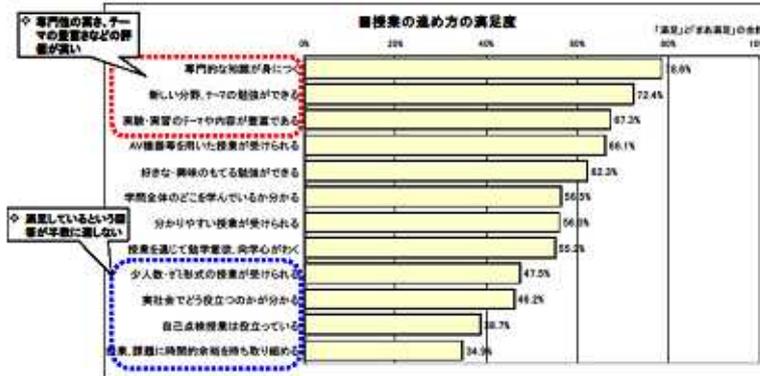
「総合アンケート」で科目別に満足度を聞いているが、「工学設計Ⅲ」「コアゼミ」「専門コア科目」など、専門性が高い高学年の科目の満足度が高かった



◆授業の進め方の満足度

14

KITの授業では「専門的な知識が身につく」と感じているが、「時間的な余裕がない」「自己点検授業に課題あり」「実社会でどう役立つのか分からない」といった不満が見られる。



091029

日本私立大学連盟・事例報告

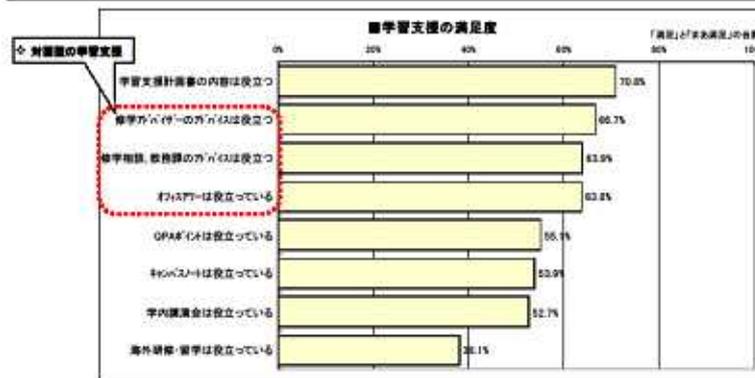
K.I.T. Takashi KUBO

35

◆学習支援の満足度

15

「学習支援計画書」には7割が満足している。「修学アドバイザー」「修学相談、教務課アドバイス」「オフィスアワー」などの対面型の支援には6割程度が満足していた。



091029

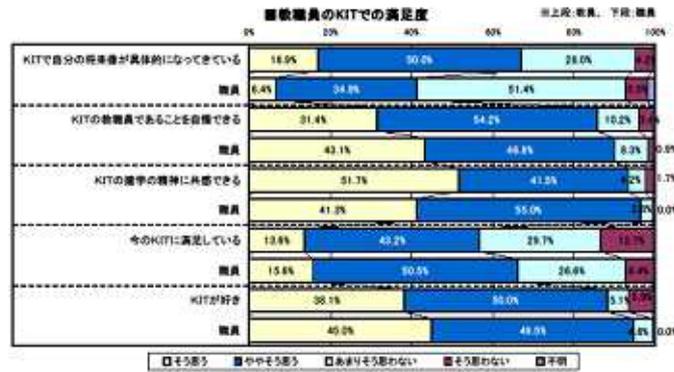
日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

36

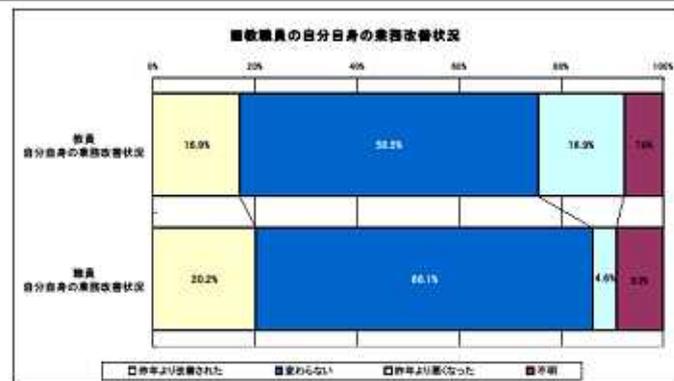
◆教職員のKITでの満足度

教員の方がKITの満足度はやや低く、  
「今のKITに満足している」という教員は56.8%、  
職員は66.1%であり、全体としては4割が不満を感じている。



◆教職員の自分自身の業務改善状況

昨年より業務が改善された教員は16.9%、  
悪くなった教員も16.9%であり、  
58.5%は変わらないと答えていた。



- ❖ KITの教育方針として「教員の熱意と導きで学生に学ぶ楽しさを感じさせ、各自の才能を引き出し、学生自身が各自の達成感によって満足を得て自律的に次のステップに進む」といったサイクルの必要性を検討する。
- ❖ 教員の熱意を伝える重要な機会である「学習相談」の重要性を再確認し、利用率の向上と内容の拡充を進める。
- ❖ 授業に興味を持たせるため、年次の最初の授業での内容説明の拡充を進める。特に大学の専門的な授業に大きな期待を持ちながら、高校生の意識で受け身な授業を受けていると思われる1年次生に対して、より丁寧な説明が必要ではないかと思われる。
- ❖ 教職員自身の業務改善は年々順調に進んでいるとは言えない状況であると思われる。再度、各自のPDCAサイクルを見直し、改善を進めていく必要があると言える。
- ❖ 調査の方向としては、満足度を構成する要素を更に深く探り、業務改善に役立つ情報を収集することをテーマとして進めるものとする。
- ❖ 現在の調査は「聞きっぱなし」になっている傾向が強く、学生に「答えても無駄」という不信感を抱かせる可能性がある。今後は「学生の意見が大学側に届き、それによって改善が進み学生にフィードバックする」というPDCAサイクルを調査に取り込んでいくこともテーマとしている。

---

**平成20年度  
「グループインタビュー」と「総合アンケート」による  
KIT在学生の実態分析結果**

---

2008/09/24 KIT教育フォーラム

有限会社 アイポイント 池田 晋

◆なぜKITを選んだのか？

3

プロジェクト、カリキュラム等に惹かれたという意見が見られた。「入試広報」「オープンキャンパス」で大学の魅力はしっかり伝わっているが、積極的とは言えない理由も少なくなかった。

分類	代表的な意見
プロジェクト、クラブなどに惹かれたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆クラブ活動が強かった。</li> <li>☆人が執行費プロジェクトに入りたかった。</li> <li>☆ロボコンで名前が知れ渡っていて、工大なら大丈夫かなと思って入学した。</li> </ul>
カリキュラムに惹かれたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆明らかにプロジェクトを目指す意欲がいくつか見られた</li> <li>☆カリキュラムに惹かれているが、やや選感としている</li> </ul>
入試広報に惹かれたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆入試広報はしっかりと発信していると言える</li> </ul>
あまり積極的とは言えない理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆積極的でない理由も少なくなかった</li> </ul>

◆入学前の期待に対しての満足度はどうだったのか？

4

4年間を過ごして「期待はずれ」という意見も見られたものの、それほど大きな期待はずれは見られず、大学も先生もしっかり面倒を見てくれていると実感しているようであった。

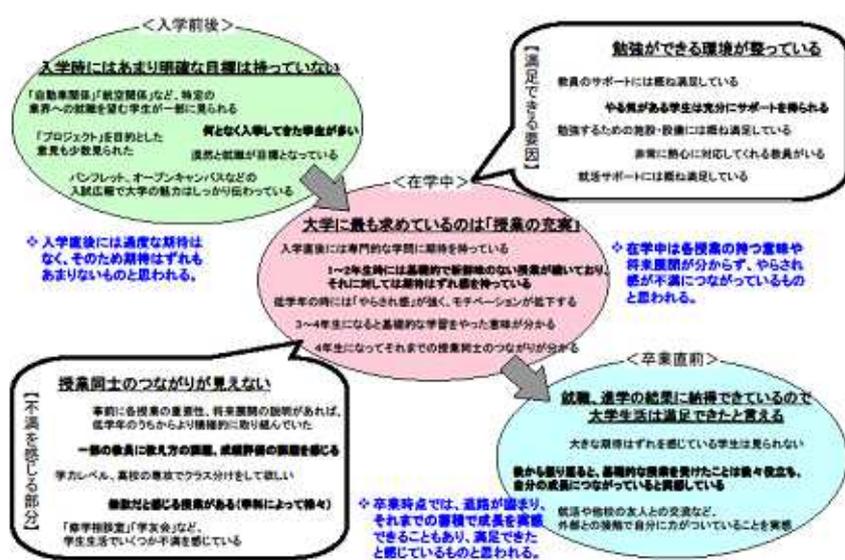
分類	代表的な意見
期待通りだった	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆就職できたことが満足につながっている</li> <li>☆先生との出会いも満足につながっている</li> </ul>
まあ良かった	
期待はずれだった	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆異なる不満ではなく、物足りないという意見が多かった</li> </ul>

◆どのような場面で自分自身の成長を感じたか？

**低学年の時には「やらされ感」がやや不満につながっているが、就職活動などで学外の人と接触することで自分自身の成長を実感し、卒業時の満足感につながっている。**

分類	代表的な成長
成長を感じたとき	<p>就職活動の中で、他校の学生がコミュニケーション能力があると思っているのが上っ面だけ感じられた。正体と本当にコミュニケーション能力がつく。他の学校の人と話す機会があって良かった。</p> <p>他の友類に行った友人と話していて、同期の差を実感して力がついているんだと思うことがある。</p> <p>元々文章力がある方ではないが、小さく小さく積み上げてきて成長した実感はある。</p> <p>1年生の時は多くのレポートがあって、頑張って書き上げてきたが、そういう事で文章を書く力がついていったと思う。</p> <p>1年の時に学んだ事が後になって実感される。あの時やったのはこういう事なんだと分かる。</p> <p>◇学外との接触で成長を感じる</p>
大学において苦労したこと	<p>授業の方はきつい。重くなってきつい。ただし、それは自分の成長につながっていると思う。</p> <p>単純に忙しすぎるから不満というわけではなく、事前に調整することはできなかった。レポートなどが溜まって出ていくことに不満がある。</p> <p>思った以上に勉強が難しく、学んでいる事が授業の度に立つたばかりのようになってからが多かった。</p> <p>人見知りなプロジェクトがこんなに大変だと全く想像してなかった。</p> <p>給料というのは、もっと華やかなイメージがあったが、そんな簡単なものではなく、勉強しがいがあった。</p> <p>授業が少なかつたらそれだけで嬉しい。あまりに忙しいので休む時間があれば満足。</p> <p>◇理由が分からないままやらされている印象がある</p>
1～2年生の時の心境	<p>1. 2年の頃は苦しかった。やる気を出さないうい状態に追い込まれていくので、力はついた。</p> <p>1年生の時はやる気がなかったが、やる気を出さないうい状態に追い込まれていくので、力はついた。</p> <p>大学に入って専門的なことをやろうとしているのに、基礎的な事をいかにやらされているうちに、どんどんモチベーションが下がっていく。</p> <p>1. 2年は専門じゃない部分が多くて、復習になって良かったのだが、新鮮味がなかった。</p> <p>1～2年の時は基礎ばかりやっていたというより、これが基礎になつたかと思つた。つながりが見えない。</p>
3～4年生の時の心境	<p>3年生くらいから何となく意識するのが見えてきて、4年でよく分かった。</p> <p>3年生の授業の授業で、今までやってきたことを前提に実験が行われるので、ああこういう時にこの技術を使うのかという感じがした。</p> <p>2年生になってからコアな部分に配置になってやっと授業が面白くなるようになってきた。</p> <p>1～2年で基礎が固くが全員が分からないところに入るのがやっとな。そこでやっとみんな揃って勉強できる。</p> <p>3年生くらいで計算とか理科とか数学の知識をかなり応用して使うので、やはり基礎ができていないとダメだと感じる。</p> <p>◇3～4年生になって、基礎をやってきて良かったと感じる</p>

◆入学前後から卒業直前まで学生の心理状況はどう変わっているか？



◆具体的な改善要望

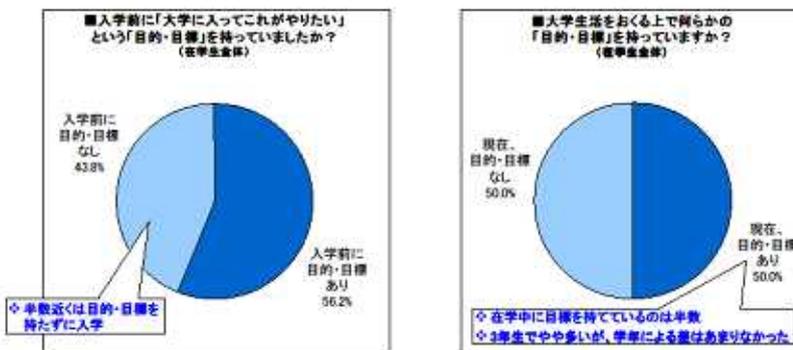
ここに挙げたものは見出しただけであるが、学生からは様々な改善要望が寄せられている。それらを活かすためのPDCAサイクルを細み上げ、対処していく必要があると言える。

◀ 要望の聞き出し→内容の吟味→改善の実施→学生へのFB ▶

<p><b>&lt;カリキュラム、授業、先生に関する改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●忙しい時期の重なり解消(課題などの調整)</li> <li>●研究室配属の早期化(専門学習の早期化)</li> <li>●講義の順序の改善(実験と講義の調整)</li> <li>●選択科目と必修科目のバランスの見直し</li> <li>●成績評価基準の見直し(出席率の減少など)</li> <li>●先生による成績評価の差の解消</li> <li>●論文の添いの見直し</li> <li>●わからない質問への見直し</li> <li>●編入生のカリキュラム見直し</li> <li>●シラバスへの改善(目的の明示など)</li> <li>●授業同士の関係の説明の徹底</li> <li>●学力、高校等項によるクラス分け</li> <li>●学科別の基礎授業内容の見直し(ベクトルなど)</li> <li>●先生のレベル向上</li> <li>●授業内容改善機関の設置</li> </ul>	<p><b>&lt;大学本校での改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●課題の指導申請の簡素化(宿題票のLANなど)</li> <li>●自転車置き場の拡張、自転車駐去ルールの見直し</li> <li>●駐車場の拡張</li> <li>●洗面、洗口場所の新設</li> <li>●女子トイレの増設</li> <li>●分煙の徹底</li> <li>●研究支援機種の業務迅速化</li> <li>●ロッカー利用条件の見直し</li> <li>●LANのアクセス権の見直し(学外からの使用)</li> <li>●無線LANの導入</li> <li>●学生会議の見直し(時間、メニューなど)</li> <li>●経営学教室の対応の見直し</li> </ul>	<p><b>&lt;八重瀬での改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車庫の設置</li> <li>●先立の営業時間延長</li> <li>●自販機の5円円切</li> <li>●食堂の拡張</li> <li>●隣の管理方法の改善</li> <li>●居残り申請の見直し</li> <li>●駐車場の拡張</li> <li>●バス運行時間の延長、バスの増発</li> <li>●教員の居場所の明確化</li> </ul>
<p><b>&lt;その他、大学運営に関する改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業料の見直し</li> <li>●教科書が高すぎる</li> </ul>	<p><b>&lt;学生会に関する改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場の利用権に関する公平感の保証</li> <li>●部室の利用権に関するルールの見直し</li> <li>●学友会費の徴収に関する情報公開</li> </ul>	<p><b>&lt;学生サポートに関する改善要望&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業と就活の重なり解消</li> <li>●就活時の公文の取り扱いは見直し</li> <li>●就活での東京行きバスの運用見直し(時間、金額)</li> <li>●公務員訓練の見直し(定員、金額)</li> <li>●就活情報ポータルサイトの見直し(2年などの解消)</li> <li>●掲示板、ポータルでの情報提供の統一</li> <li>●学校の動向情報の積極的な発信</li> <li>●授業アンケートの見直し(配速中心へ)</li> <li>●学生の意見を収集し、活かす仕組みの導入</li> <li>●インターン待機の見直し(3学期制の弊害)</li> </ul>

◆入学前、在学中の目的・目標意識に関して

入学前には「目的・目標あり」が半数をわずかに超えていたが、目標を持たないまま入学してきた学生は少なくない。また、在学中に目的・目標を持っている学生は半数にとどまった。

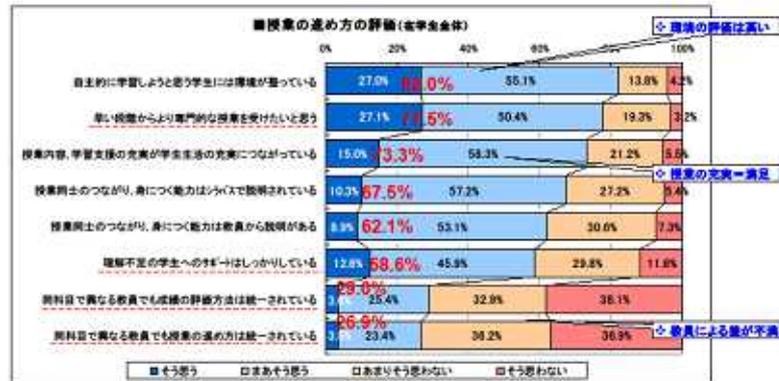


※総合アンケートは「新入生」「在学生」「卒業・修了生」教職員を対象として実施している。  
※「目的・目標」に関しては「教職員」以外に集めているが、上記は「在学生」のみを抽出して比較を行っている。

◆授業の進め方に関して

10

学習環境は整っているが、「教員による成績評価の差・指導の差」「専門科目の早期開始」「理解不足の学生サポート」などの面やや不満が見られる。



091029

日本私立大学連盟・事例報告

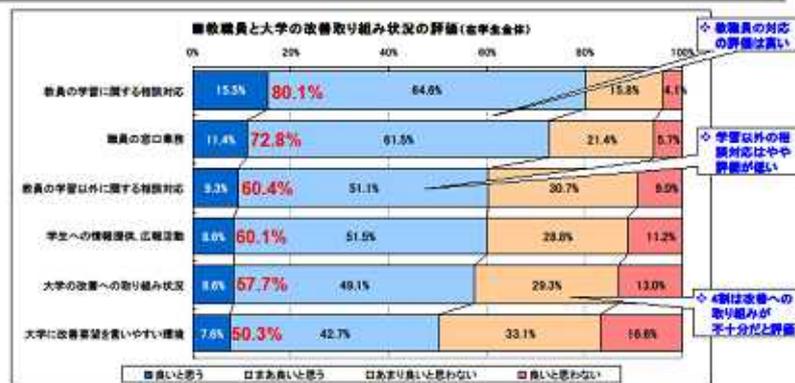
K.I.T. Takashi KUBO

47

◆教職員と大学の改善取り組み状況に関して

11

教職員の学生への対応には7～8割が満足しているが、「学生への情報提供、広報活動」「改善への取り組み状況」「改善要望を言いやすい環境」には4～5割が不満を持っている。



091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

48

◆今後の課題

13

- ❖ 現在、大学には学習をするための環境は整っており、教職員の学生サポートにも大きな不満は感じられなかった。低学年の段階では忙しすぎることにやや不満があるものの、4年間を通してみるとそれほど大きな期待はずれも見られなかった。

ただし、下記のような事例が今後の課題になると思われる。

- ❖ 漠然とした理由でKITを選んだ学生も多く、半数は「目的・目標」が見えていなかった。「専門課程の開始を早める」「各自の成長を実感できる場を提供する」「将来像を意識させてやる気を起こさせる」など、「目的・目標」を持たせ、「やりがい」を感じさせる仕組みを充実する。
- ❖ カリキュラムに関しては「授業同士のつながりが見えない」「教員によって成績評価・指導に差がある」「各授業の重要性、身につく能力、将来展開の説明が不足している」「学部・学科によってカリキュラムに過不足がある」といった改善要望が見られ、それらを含めた改善要望の検討も必要だと思われる。
- ❖ 「改善要望を言いやすい環境」「学生への情報提供、広報活動」「改善への取り組み状況」への不満が見られるため、「要望の聞き出し→内容の吟味→改善の実施→学生へのFB」というPDCAサイクルをしっかりと回す必要があると思われる。

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

49

金沢工業大学 御中

平成20年度 授業調査 報告書  
2009.08.14

有限会社 アイ・ポイント

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

50

## <1-1>全体概略

3

### 1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度から質問項目を変更しており、今回が4年目となるため、4年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。

### 2)調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容																																							
有効回答数	1年次生 31,564件 2年次生 38,414件 3年次生 25,809件 4年次生 6,577件 合計有効回答数 104,494件																																							
年別回答数推移	※留年して平成26年度に5クラスである学生の回答が97件あったが、新旧のクラスが混在するため、旧クラスの回答は集計から除外した。また、クラス転入の回答も集計から除外した。 回答数の推移は下記の通り。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>春学期(夏期特別含む)</th> <th>秋学期</th> <th>冬学期</th> <th>全調査数</th> <th>調査票</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成15年度</td> <td>30,514</td> <td>25,157</td> <td>25,464</td> <td>84,135</td> <td>旧調査票</td> </tr> <tr> <td>平成16年度</td> <td>31,483</td> <td>31,855</td> <td>29,601</td> <td>92,939</td> <td>(比較不可)</td> </tr> <tr> <td>平成17年度</td> <td>36,795</td> <td>33,361</td> <td>30,653</td> <td>100,799</td> <td rowspan="4">新調査票</td> </tr> <tr> <td>平成18年度</td> <td>30,518</td> <td>33,893</td> <td>31,734</td> <td>102,005</td> </tr> <tr> <td>平成19年度</td> <td>35,723</td> <td>33,919</td> <td>32,275</td> <td>101,917</td> </tr> <tr> <td>平成20年度</td> <td>37,693</td> <td>34,103</td> <td>32,698</td> <td>104,494</td> </tr> </tbody> </table>	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全調査数	調査票	平成15年度	30,514	25,157	25,464	84,135	旧調査票	平成16年度	31,483	31,855	29,601	92,939	(比較不可)	平成17年度	36,795	33,361	30,653	100,799	新調査票	平成18年度	30,518	33,893	31,734	102,005	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494
年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全調査数	調査票																																			
平成15年度	30,514	25,157	25,464	84,135	旧調査票																																			
平成16年度	31,483	31,855	29,601	92,939	(比較不可)																																			
平成17年度	36,795	33,361	30,653	100,799	新調査票																																			
平成18年度	30,518	33,893	31,734	102,005																																				
平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917																																				
平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494																																				
対象科目	254科目																																							
実施方法	・ 実施期間:各学期の各種授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後高度に読み込み処理を行った。																																							
調査主体	学校法人 金沢工業大学																																							
集計	有限会社 アイ・ポイント																																							

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

51

### 3)以前の設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)		新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	この科目に興味を持って受講することができましたか。	→	A 受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	1回の授業に対する学習・復習はどの程度行いましたか。		B 最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を把握できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OA)は有効でしたか。		C 授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OA)を利用する回内に、どのような行動を取りましたか。		D 1回の授業に対する学習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。		E 教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。		F 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。		G 授業内容は学習支援計画書に沿っていましたが、	受講中	授業内容
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。		H 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。		I 授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。		J 授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	あなたはこの科目に満足していますか。		K 授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前の設問との比較は行っていない。
- 設問の「D」「F」「H」「K」は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

091029

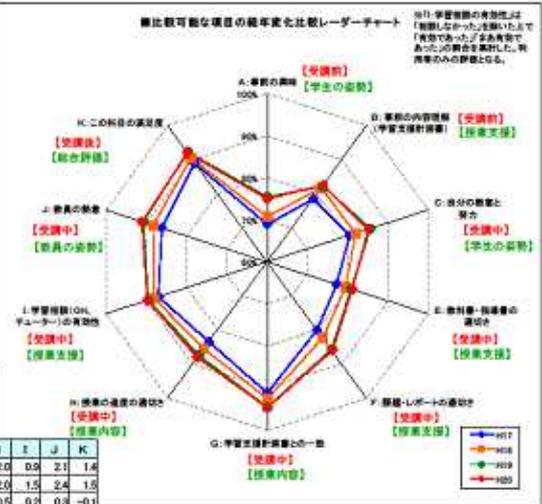
日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

52

<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 全体的な傾向を確認するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにまとめた。なお、肯定的な意見として集計できない「D:学習・復習、課外活動」は加えておらず、「I:学習相談の有効性」は利用経験者の意見のみを集計している。
- 並列で比較できるものではないが、全体的な傾向を見ると、「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」といった項目の評価がやや低めであり、本格的なカリキュラムに入る前に興味を持たせたり、どのような内容であるかを事前に理解させるといった事前準備に改善の余地があるのではないかとと思われる。
- 一方、「K:この科目の満足度」をはじめとして、「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」などは肯定的な意見が9割を超えており、授業の進め方や学生サポートなどの評価は高く、教員の熱意も伝わっていると言える。
- 前項までに各指標の経年変化を見ているが、ここでも同様にH19とほとんど差がないことが確認できた。しかし、H17、H18と比べると評価は高く、改善が進んでいると思われる。

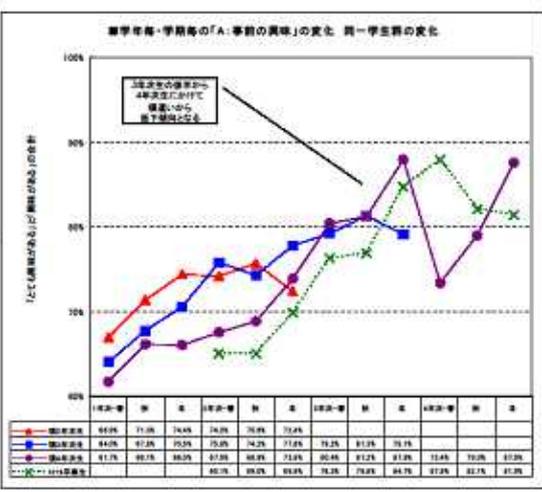


● 肯定的な意見の量(単位:ポイント)

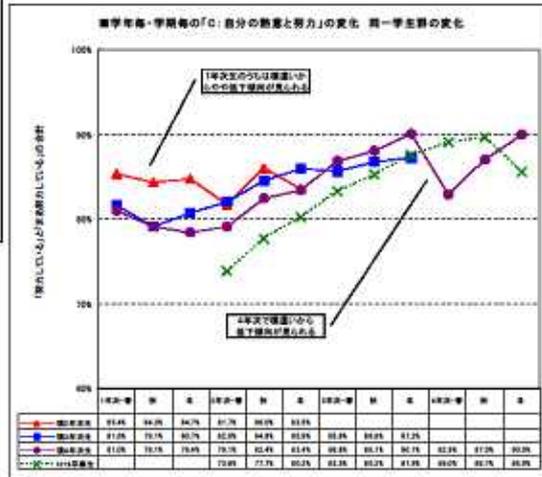
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.2	2.4	2.3	1.3	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.8
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1

<6-1> 同一学生群の変化に関する分析

- ここまでに学年毎、学期毎などの差を見てきたが、同一学生群ではどのような変化をしているのか、主な指標に関して確認した。
- 「A:事前の興味」に関しては、学生群は異なっても1年次生から3年次生にかけてはほぼ右肩上がりであり興味が強まっていることが確認できる。
- そして、4年次生になると一気に低下したり、横ばいとなり、それまでの変化とは違う傾向が見られた。
- これらの変化を見ると、授業に対する事前の興味は、低学年では低いものの、学年が上がるに連れて上昇しており、徐々に学生の興味を惹くことができていると言える。
- 4年次生では、割合は分らないが再履修などがあるために興味低下が見られるのではないかとと思われるが、これらの要因に関しては更なる情報収集が必要と言える。

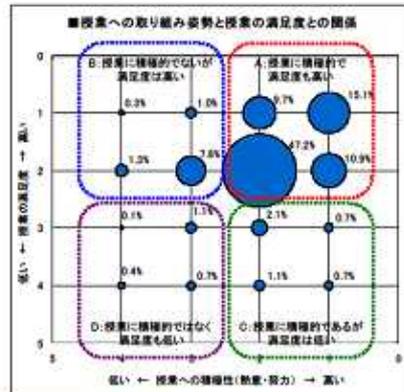


- 次に代表的な指標である「C:自分の熟意と努力」を見ると、全体的に緩やかではあるが徐々に熟意と努力が増え、積極性が増している傾向がみられた。
- 1年次生の段階ではほぼ横這いで、春から秋にかけては低下の傾向も見られたが、これは入学直後に安心して気が抜けているのではないかとと思われる。ただし、それほど大きな低下ではない。
- 2年次生から3年次生にかけては徐々に肯定的な意見が増加しており、学生の積極性が増している様子が見られる。もう少し積極性を期待したいところではあるが、現段階でも悪い状態ではないと考える。
- 4年次生の段階を見るには2学年分のデータしかないためはっきりしたことは言えないが、低下する部分も見られ、再履修による積極性の低下や、卒業確定による気のゆるみなどもあるのではないかとと思われる。



<7-1>授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

- 「C:自分の熟意と努力」と「D:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A」の「授業に積極的で満足度も高い」という最も良い状態にある学生は全体の62.8%であった。中でも満足度も積極性もいずれも最も高いという学生は15.1%であった。
- 「B」の「授業に積極的ではないが満足度は高い」という学生は10.3%であった。これらの学生は自らは積極性を持っていないが教員の指導などによって授業についていくことができ、結果的に満足しているものと思われる。
- 「C」の「授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は4.5%であった。これらの学生は授業についていけないかったり、積極的に取り組んだものの期待はずれを感じているといった状況が考えられるが、この満足度の低さが「あきらめ」になってしまわないよう、しっかりしたサポートが必要と考える。
- 「D」の「授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の2.3%と非常に少なかったが、最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。これらの学生の指導には何らかの成功体験を積ませることがスタートになるのではないかとと思われる。



領域	割合	取り組み姿勢	傾向
A	62.8%	授業に積極的で満足度も高い。 最も理想的な学習態度であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	10.3%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引込まれているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いする必要まではないとされる。	消極・満足型
C	4.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」について話し合いといった理由が考えられる。	積極・不満型
D	2.3%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないけと思われる。	消極・不満型

## <8-2>全体のサマリー

60

これまでの分析から分かったことをまとめると下記のような。

- 授業に満足している学生は92.0%と満足度は高く、学生、教員共に熱意を持って授業に取り組んでいると言える。ただし、授業を受ける前の準備や学習相談の活用がやや低調と言える。
- 「授業の満足度」をはじめとして、ほとんどの項目で前回とほぼ同じ結果であったが、予習・復習、課外学習の時間はやや減少し、「学習相談」の利用率はわずかに増加していた。
- 「1年次生」から「2年次生」にかけて少しモチベーション低下があるが、高学年ほど授業に対する取り組み姿勢が積極的になっており、授業の満足度、自分の熱意共に「4年次生」が最も高い。
- 同一学生群の変化を見ると、どの学生群でも入学直後から1年間は満足度、熱意が低下する傾向が見られ、この1年間にモラルの低下などの変化があるものと思われる。
- 新構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態で、「バイオ・化学部」が全体的に低めであった。満足度には差はないが、事前の興味には大きな差が見られた。
- 旧構成の学部では「環境・建築学部」が良い状態であり、「工学部」「情報フロンティア学部」と続いていた。そして、「事前の興味」「教科書・指導書」に差が見られた。
- 一般科目では「人間形成基礎科目」、専門系科目では「専門プロジェクト科目」の評価が高かった。そして、専門系科目に対する事前の興味が非常に強いことが分かった。
- 「積極・満足型」は昨年より0.2ポイント増加して82.8%で、新旧共に「環境・建築学部」が良い状態であり、新学部の「バイオ・化学部」に課題がありそうであった。



- ◇ 前回までは学生の満足度、事前の興味、積極性が年々増してくる傾向にあったが、今回は大きな変化がなく、ほぼ前回と同じ傾向であった。全体の9割以上が授業に満足する状況は変わっておらず、緊急度の高い課題は見当たらないと言える。
- ◇ 授業の評価が高い属性である「4年次生」「環境・建築学部」「専門系科目」などに共通なのは「事前の興味」「事前の内容理解」が高い点であった。事前のオリエンテーションやシラバスなどでの効果的な事前の情報提供が更なる満足度の向上につながるものと思われる。また、「1年次生」の後半のモチベーション低下を防ぐことも全体の満足度向上につながると思われる。
- ◇ 授業アンケートは同一内容で4年連続しており、現在の調査項目に關しての回答傾向はつかめて学生の考え方も分かっているため、「事前の興味を持たせる方法」など、テーマを変えていくことも必要かと思われる。

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

57

## 教育改善への取組み

- 人間力教育（総合力 = 学力 × 人間力）
- 総合力評価の試み（CLIP学習プロセス）
- 学習支援計画書（シラバス）
- 総合力指標に関する重み付け
- 学生自身による学習・教育目標達成度の確認
- 教育プログラムの点検・評価と改善のためのPDCA

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

58

建学綱領 : 人間形成 技術革新 産学協同  
 教育目標 : 自ら考え行動する技術者の育成

KITの行動規範

KIT学生の行動特性

**K**・・・Kindness of Heart 思いやりの心  
**I**・・・Intellectual 知的好奇心  
**T**・・・Team Spirit 共同と共創の精神

**I**・・・Integrity 誠実  
**D**・・・Diligence 勤勉  
**E**・・・Energy 活力  
**A**・・・Autonomy 自立  
**L**・・・Leadership リーダーシップ  
**S**・・・Self-Realization 自己実現

- 1) 挨拶・返事の励行(人間関係の基本)
- 2) 皆出席・定刻出席(勤務態度)
- 3) 予習・復習の実施(仕事の準備)
- 4) 授業への集中(仕事に集中)
- 5) 課題の提出期限厳守(仕事の納期厳守)
- 6) 学習に必要な情報の収集(仕事に必要な情報収集)
- 7) スケジュール管理(仕事の進捗状況)
- 8) キャンパス・教室内の美化(職場の美化)
- 9) 学内・社会のルールを順守(倫理観)

## 人間力

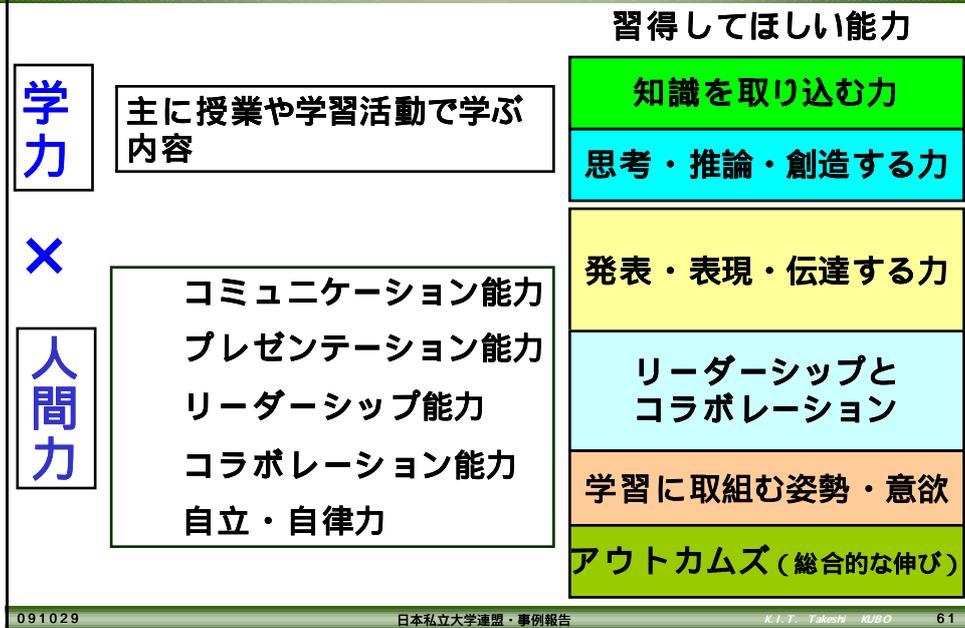
- 新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成のための指導理念  
 (「人間力戦略ビジョン」文部科学省広報25号、平成14年9月30日)
- 社会を構成し運営するとともに、自立した人間として力強く生きていくための総合的な力(『人間力戦略研究会報告書』内閣府諮問機関、平成15年4月10日)

### 金沢工業大学 「社会に適應できる能力」

- ・社会で自分を活かして生きていける力
- ・あらゆる人とのコミュニケーションを円滑に図り、ひとりの大人として責任ある行動がとれる力
- 自立・自律(チャレンジ精神、自己管理能力)
- リーダーシップ(統率力、指導力)
- コミュニケーション能力(意思・感情・思考を伝達する能力)
- プレゼンテーション能力(提示・発表する能力)
- コラボレーション能力(協働・協調する能力)

### 教育現場において可能な指導

## 学力 × 人間力 = 総合力の関係



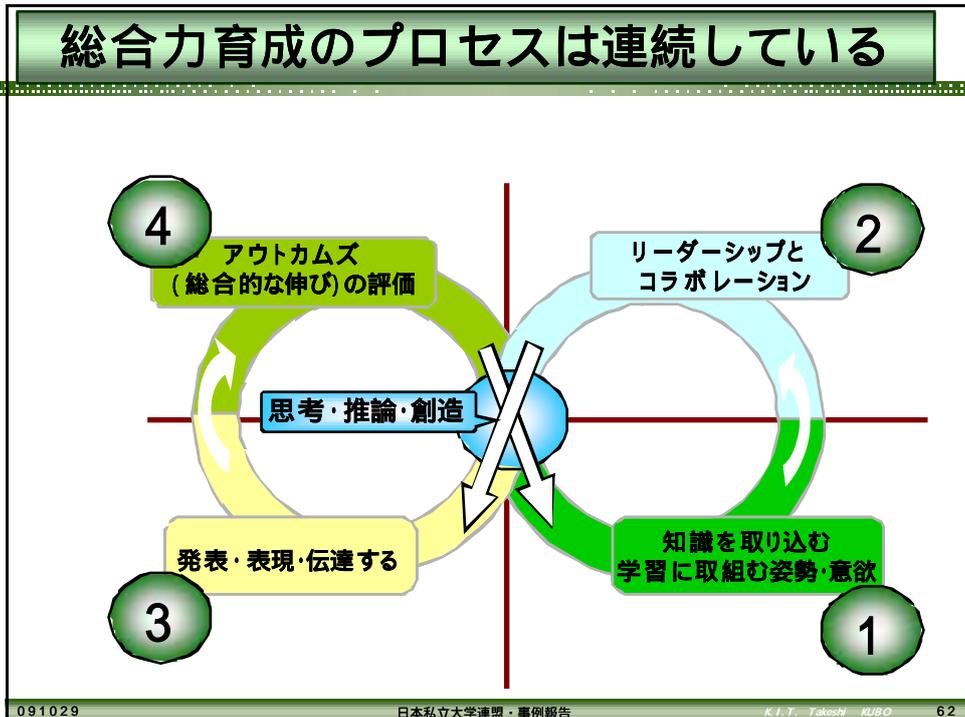
091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

61

## 総合力育成のプロセスは連続している



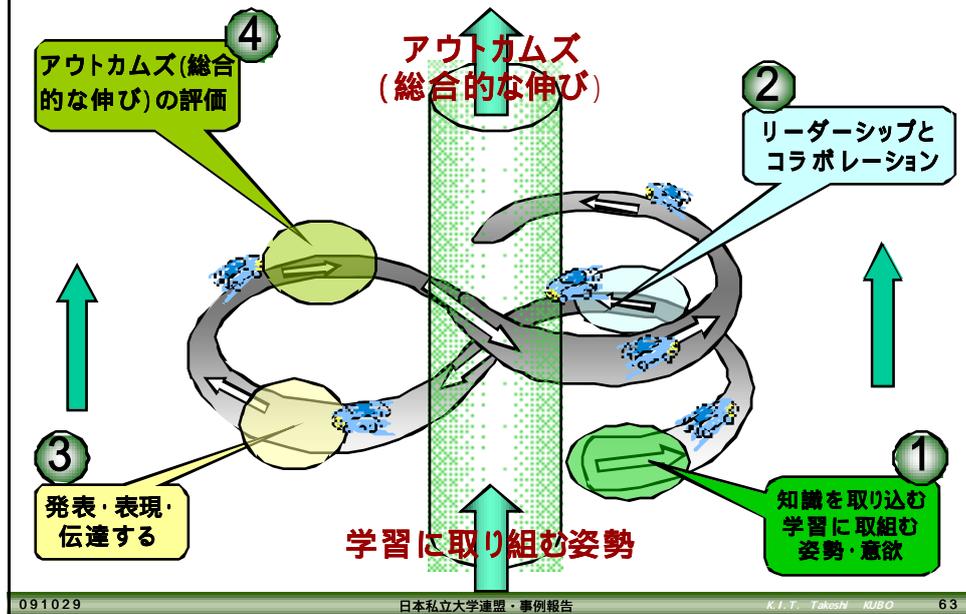
091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

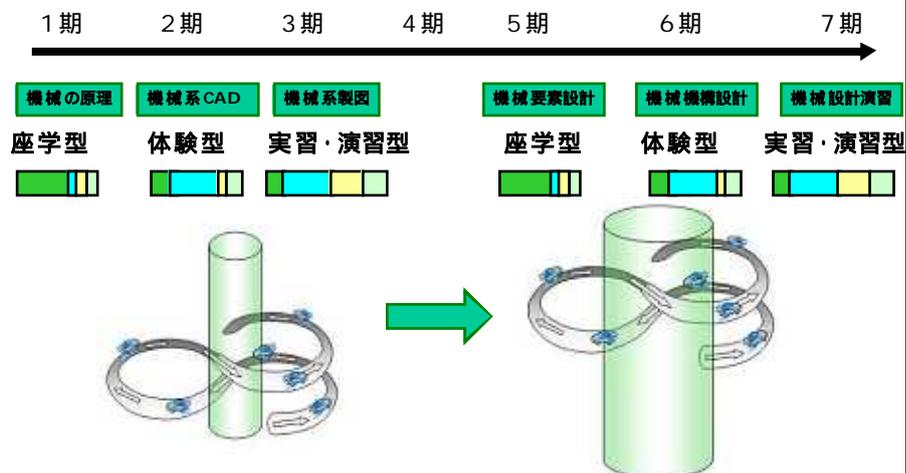
62

## 学習プロセスがスパイラル上昇



## 各教育プログラムと科目群

機械工学科 教育目標の一つ『設計能力』を例にすると



## 新学習プロセス（CLIP）の導入

学力 × 人間力 = 総合力

評価手法が不十分

新しい評価手法を含めた  
新学習プロセス(CLIP)を導入

CLIP Creative Learning Initiative Process

## 学習支援計画書（シラバス）

The image shows a detailed syllabus document for a course. It includes several tables and sections of text. The tables contain course information, learning objectives, and evaluation criteria. The text blocks provide further details about the course content and teaching methods. The document is organized into a clear, structured format, typical of a university syllabus.

## 学習支援計画書の内容

## 学生の目線

1. 授業科目の学習教育目標
2. 授業の概要・学習上の助言
3. 教科書・参考書
4. 履修に必要な予備知識
5. 学生が達成すべき行動目標 「 **することができる** 」
6. 達成度評価（評価方法・指標と評価割合）
7. 評価の要点
8. 具体的な達成の目安
9. 授業明細表（1授業毎：学習内容・授業の運営方法・学習課題）

評価の内容と基準の提示 透明性  
 達成度確認試験 全評価数値の40%以内  
 17年度より定期試験の廃止  
 結果重視型 プロセス重視型  
 成績異議申立制度

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

67

## 新しい評価方法（総合力評価）

手段

	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計
	30	10	20	30		10		100
知識を取り 組む力	10	10						20
思考・推 論・創造力	20		20					40
コラボレ ーション・ リーダー シップ				15				15
発表・表 現・伝達力				15				15
学習姿勢・ 意欲						10		10

能力

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takashi KUBO

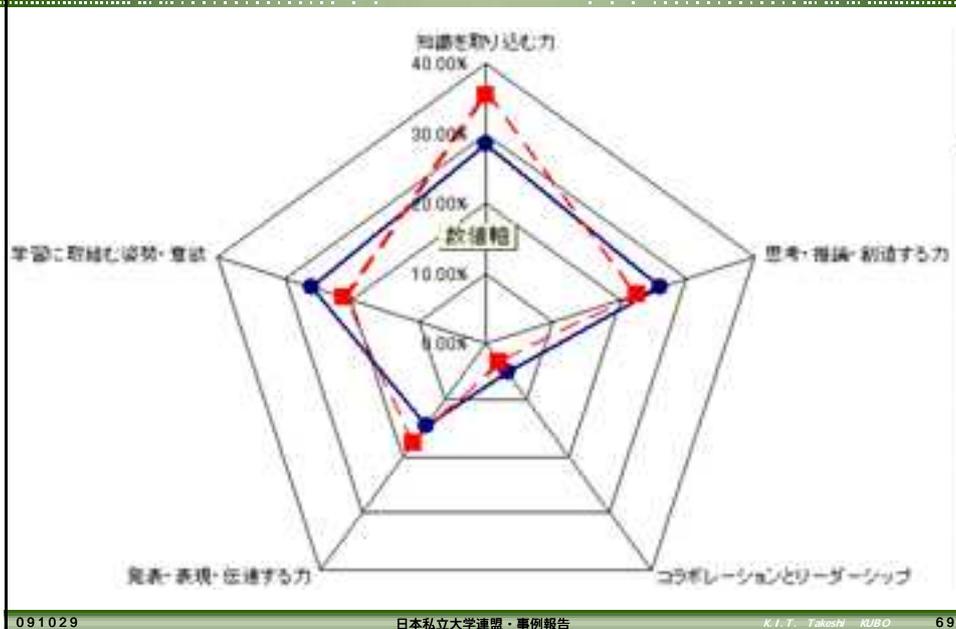
68

## 学生の自己点検

学習で取り組んだ能力・不足する能力

## 学科・課程教員のFD

学部・学科・課程の各能力の配分検証



## 総合力指標に関する重み付け

責任者 渡辺 勤

平成20年12月17日

教務部長 佐藤 謙一

### CLIP学習支援計画書の総合力指標に関する重み付けについて

本年度から本学課程に導入されたCLIP学習支援計画書の総合力指標について、学生が持つべき能力がどの程度あるかを体系的にイメージを構築するために、昨年5月20日のWT討議向上委員会(総務会)で確認されている以下の重み付けを決定しました。

例えば、「総学基礎」は21単位の授業をもって以下の割合で総合力の養成を目標としています。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーションとリーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
総学基礎1	0.26	0.24	0.06	0.06	0.38

ここで、1単位分の授業で、重み1以上の総合力を獲得する授業は、以下のようにあります。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーションとリーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
総学基礎1	0.26	0.24	0.06	0.06	0.38

実際には履修の状況に対して、総合評価が100点満点を超えた場合、毎単位の総合力となります。例えばAが「総学基礎1」で88点と評価された場合、以下のようになります。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーションとリーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
総学基礎1	0.30	0.17	0.04	0.09	0.43

この考えをもとに総合力を算定すると、総学基礎1の授業で獲得されている41科目(普通学課程)の総合力がAがどの程度かを算定して、学生は以下の総合力を獲得したと想定されます。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーションとリーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
総学基礎1	21.27	12.20	3.44	12.88	15.62

以上の総合力に関する重み付けを照らして、委員は既に平成20年度からスタートした教育課程の総合力指標を構築し(リーダーシップ部門)、また、各教育課程に共通のAは、本学が社会に貢献する能力を養成するための行動する目標を設定すること、今後、それぞれの授業科目やそれらが構成した教育プログラムで目標とする総合力(目標値)を設定する際の参考資料としてご活用ください。

平成20年度カリキュラムの総合力指標

区分	課程	到達率(%)	達成率(%)	コア能力 達成率(%)	卒業生 満足率(%)	卒業生 就職率(%)	進路 希望率(%)
C	専門教育課程	38.4%	37.0%	2.0%	23.1%	20.0%	1.1%
	(建築都市デザイン学科)	37.2%	35.5%	1.8%	19.5%	18.3%	100.0%
※	単科生14ヵ国	38.0%	34.0%	1.8%	24.7%	24.2%	2.1%
		37.9%	35.3%	2.2%	18.6%	18.1%	100.0%

建築都市デザイン学科教育プログラムの総合力指標



学生自身による学習・教育目標の確認

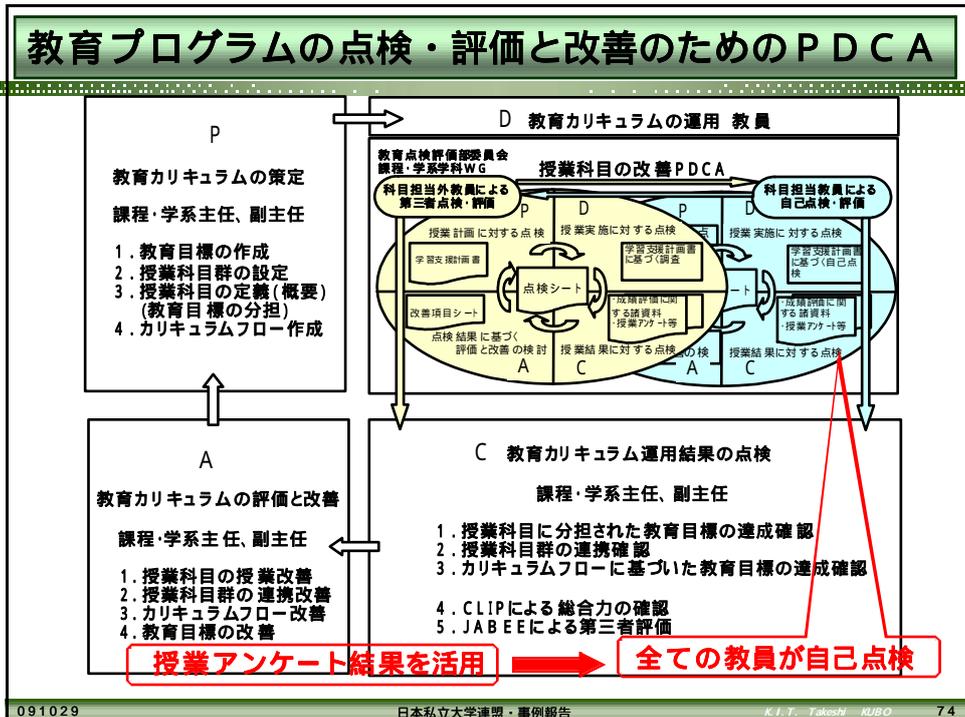
総合力指標Q1Aによる学習・教育目標達成確認表

区分	課程	到達率(%)	達成率(%)	コア能力 達成率(%)	卒業生 満足率(%)	卒業生 就職率(%)	進路 希望率(%)
C	専門教育課程	38.4%	37.0%	2.0%	23.1%	20.0%	1.1%
	(建築都市デザイン学科)	37.2%	35.5%	1.8%	19.5%	18.3%	100.0%
※	単科生14ヵ国	38.0%	34.0%	1.8%	24.7%	24.2%	2.1%
		37.9%	35.3%	2.2%	18.6%	18.1%	100.0%

総合力指標Q1Aによる学習・教育目標達成確認表

区分	課程	到達率(%)	達成率(%)	コア能力 達成率(%)	卒業生 満足率(%)	卒業生 就職率(%)	進路 希望率(%)
C	専門教育課程	38.4%	37.0%	2.0%	23.1%	20.0%	1.1%
	(建築都市デザイン学科)	37.2%	35.5%	1.8%	19.5%	18.3%	100.0%
※	単科生14ヵ国	38.0%	34.0%	1.8%	24.7%	24.2%	2.1%
		37.9%	35.3%	2.2%	18.6%	18.1%	100.0%

総合評価Q1人による学習・教育目標達成度調査表									
学年	調査年度	学年	調査年度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度
1	2019	2	2020	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
59	60	61	62	63	64	65	66	67	68
69	70	71	72	73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84	85	86	87	88
89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
99	100	101	102	103	104	105	106	107	108
109	110	111	112	113	114	115	116	117	118
119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
129	130	131	132	133	134	135	136	137	138
139	140	141	142	143	144	145	146	147	148
149	150	151	152	153	154	155	156	157	158
159	160	161	162	163	164	165	166	167	168
169	170	171	172	173	174	175	176	177	178
179	180	181	182	183	184	185	186	187	188
189	190	191	192	193	194	195	196	197	198
199	200	201	202	203	204	205	206	207	208
209	210	211	212	213	214	215	216	217	218
219	220	221	222	223	224	225	226	227	228
229	230	231	232	233	234	235	236	237	238
239	240	241	242	243	244	245	246	247	248
249	250	251	252	253	254	255	256	257	258
259	260	261	262	263	264	265	266	267	268
269	270	271	272	273	274	275	276	277	278
279	280	281	282	283	284	285	286	287	288
289	290	291	292	293	294	295	296	297	298
299	300	301	302	303	304	305	306	307	308
309	310	311	312	313	314	315	316	317	318
319	320	321	322	323	324	325	326	327	328
329	330	331	332	333	334	335	336	337	338
339	340	341	342	343	344	345	346	347	348
349	350	351	352	353	354	355	356	357	358
359	360	361	362	363	364	365	366	367	368
369	370	371	372	373	374	375	376	377	378
379	380	381	382	383	384	385	386	387	388
389	390	391	392	393	394	395	396	397	398
399	400	401	402	403	404	405	406	407	408
409	410	411	412	413	414	415	416	417	418
419	420	421	422	423	424	425	426	427	428
429	430	431	432	433	434	435	436	437	438
439	440	441	442	443	444	445	446	447	448
449	450	451	452	453	454	455	456	457	458
459	460	461	462	463	464	465	466	467	468
469	470	471	472	473	474	475	476	477	478
479	480	481	482	483	484	485	486	487	488
489	490	491	492	493	494	495	496	497	498
499	500	501	502	503	504	505	506	507	508
509	510	511	512	513	514	515	516	517	518
519	520	521	522	523	524	525	526	527	528
529	530	531	532	533	534	535	536	537	538
539	540	541	542	543	544	545	546	547	548
549	550	551	552	553	554	555	556	557	558
559	560	561	562	563	564	565	566	567	568
569	570	571	572	573	574	575	576	577	578
579	580	581	582	583	584	585	586	587	588
589	590	591	592	593	594	595	596	597	598
599	600	601	602	603	604	605	606	607	608
609	610	611	612	613	614	615	616	617	618
619	620	621	622	623	624	625	626	627	628
629	630	631	632	633	634	635	636	637	638
639	640	641	642	643	644	645	646	647	648
649	650	651	652	653	654	655	656	657	658
659	660	661	662	663	664	665	666	667	668
669	670	671	672	673	674	675	676	677	678
679	680	681	682	683	684	685	686	687	688
689	690	691	692	693	694	695	696	697	698
699	700	701	702	703	704	705	706	707	708
709	710	711	712	713	714	715	716	717	718
719	720	721	722	723	724	725	726	727	728
729	730	731	732	733	734	735	736	737	738
739	740	741	742	743	744	745	746	747	748
749	750	751	752	753	754	755	756	757	758
759	760	761	762	763	764	765	766	767	768
769	770	771	772	773	774	775	776	777	778
779	780	781	782	783	784	785	786	787	788
789	790	791	792	793	794	795	796	797	798
799	800	801	802	803	804	805	806	807	808
809	810	811	812	813	814	815	816	817	818
819	820	821	822	823	824	825	826	827	828
829	830	831	832	833	834	835	836	837	838
839	840	841	842	843	844	845	846	847	848
849	850	851	852	853	854	855	856	857	858
859	860	861	862	863	864	865	866	867	868
869	870	871	872	873	874	875	876	877	878
879	880	881	882	883	884	885	886	887	888
889	890	891	892	893	894	895	896	897	898
899	900	901	902	903	904	905	906	907	908
909	910	911	912	913	914	915	916	917	918
919	920	921	922	923	924	925	926	927	928
929	930	931	932	933	934	935	936	937	938
939	940	941	942	943	944	945	946	947	948
949	950	951	952	953	954	955	956	957	958
959	960	961	962	963	964	965	966	967	968
969	970	971	972	973	974	975	976	977	978
979	980	981	982	983	984	985	986	987	988
989	990	991	992	993	994	995	996	997	998
999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008



# 授業アンケート (Web公開) 学生・教員ともに自己点検

- 「学生の行動目標達成度自己評価」
- 授業や教員についての不満、意見、改善要求に関する自由記述項目
- 該当科目で良かった点に関する自由記述項目
- その他、科目HPによる独自のアンケート
- 授業アンケート結果  
フィードバックコメントシステム：Web公開

## 全ての教員が授業を自己点検

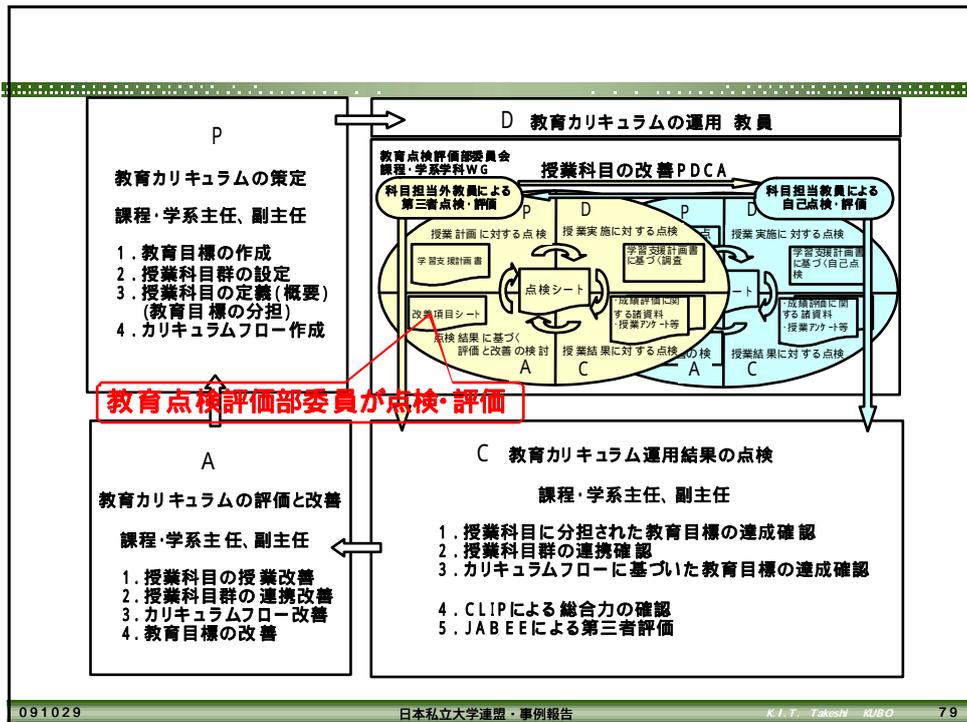
授業点検シート

授業アンケート集計結果通知書に準拠して(ただし)

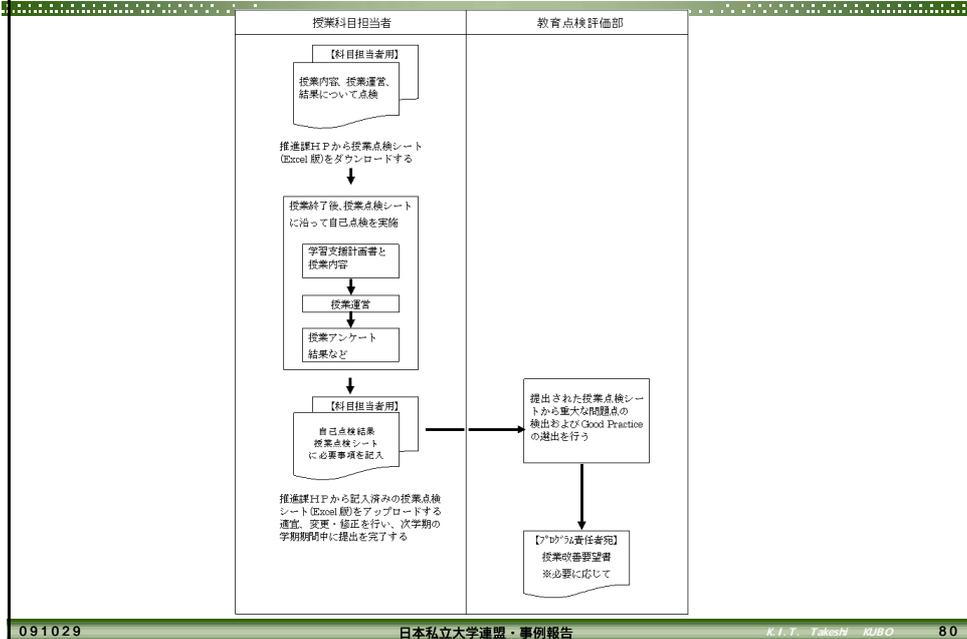
点検事項	点検項目	Check (達成率の項目に1を記入してください)										A: 改善要求/期待される効果(記述)		
		満足	改善の余地あり	満足	改善の余地あり	満足	改善の余地あり	満足	改善の余地あり	満足	改善の余地あり			
P おまかせ授業計画(学修計画)	授業計画(目標)が明確であるか													C 授業計画にこの科目で扱うべき内容が過不足なく盛り込まれているか
	授業計画(目標)が達成可能なものであるか													
	授業計画(目標)が学生の学習目標と一致しているか													
D 授業内容	授業内容、目標、学習目標が明確であるか													授業アンケートのコメントに多くの記述があるが、特に留意するものは無いと判断する。
	授業内容、目標、学習目標が達成可能なものであるか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													
	授業内容、目標、学習目標が学生の学習目標と一致しているか													

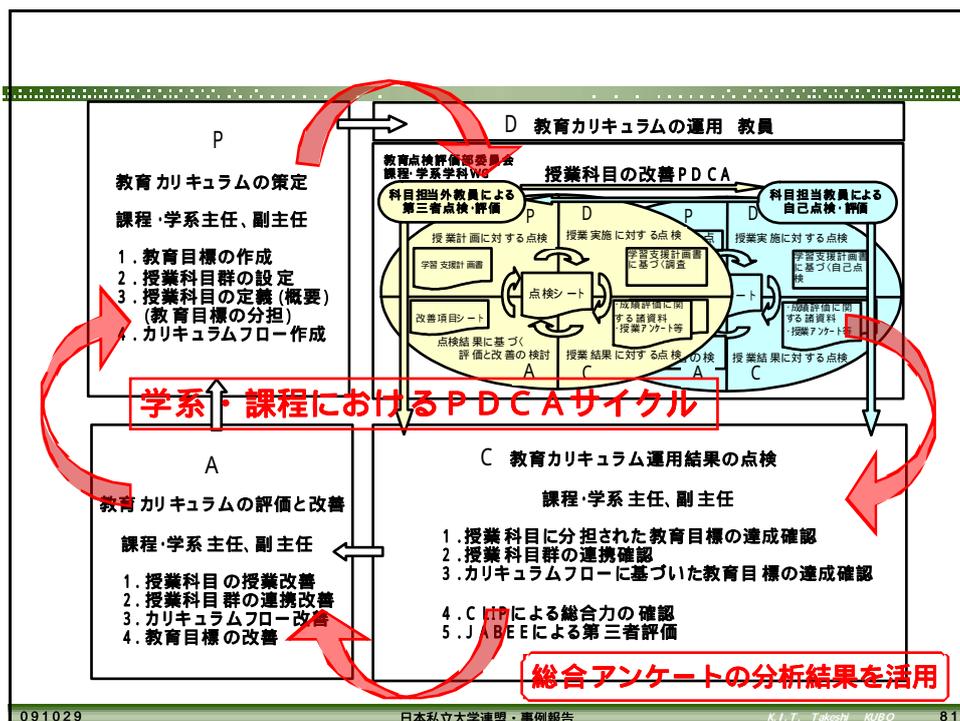
Aについては、結果資料を可能な限りCDP E-Fileに添えて提出して下さい。





## 平成21年度の第三者による点検・評価





## 大学の学生に対する教育責任

### 学科・課程・個人レベル

1. 新採用教員研修会  
(法人：春1日・夏2日、大学：春1日)
2. 新採用教員KIT FD研修会  
(夏4日間、日本IBM研修サービス)
3. 学科・課程におけるFD研修会、WG活動
4. 複数担当者科目におけるWG活動
5. 科目別FD報告書の提出  
(学期別、年間総括)

## 全学レベル：学内評価

### 1 . 教育点検評価部

#### 科目別保存資料の提出

- ・レポート、各種テスト等のランク別サンプル、模範解答
- ・成績表、出欠簿、配付資料
- ・授業アンケート、フィードバックコメント（Web公開）

#### 教育目標達成度調査

- ・上記に加えて授業参観、全科目実施予定

### 2 . 教育フォーラム（年4～5回、全教員参加、情報の共有）

- ・60分間の発表
- ・『KIT PROGRESS 工学教育研究』に投稿
- ・日本工学教育協会、その他教育関係機関での発表・投稿

### 3 . 教育活動適正化委員会

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

83

## 全学レベル：学外・第三者評価 （異なるメジャーでの評価）

### 1 . 教育・研究の健全性：日本技術者教育認定機構

（JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education）

#### 教育プログラムの評価

4年間の教育プログラムが達成する教育成果

継続的な教育改善活動と機能性

完全な証拠主義

#### 【効果】

- ・教育内容の改善PDCA：個人 組織
- ・積極的に取り組む学科 授業アンケートが良好

### 2 . 機関の健全性：大学基準協会、日本高等教育評価機構

### 3 . 経営の健全性：日本経営品質賞委員会

## いま大学は・・・

教育改革

個性化・特色化の推進、社会への説明  
教育力・研究力の強化、自己点検評価と改善

大学の位置付け

1. 研究者の育成
2. 高度専門職業人の育成
3. 専門教養を備えた人材の育成

大学間格差

大学内学生間格差

大学の教育目標

社会のニーズに応じた目標  
具体的で、実行・達成可能な目標

大学の教育目標を  
達成した学生は  
何ができるようになるのか

入学を許可した学生への教育責任とは・・・

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

85

## 進むべき方向性・使命の確立と教職員による共通認識

いま教育改革に求められているのは

1. 大学全体（理事会、教職員）での組織的なFD活動への取組
2. 内容とスピード：教職員による情報の共有と迅速な行動
3. 多様な学習歴と多様な入試形態  
教育の質と成果の保証  
学生・保護者・社会に対する説明責任
4. 教員は教育と研究のどちらに軸を置くのか  
教育は使命、研究は責務
5. 職員は職務として学生のために何をなし得るのか

職員はサポートからファシリテートへ：教職員一体型  
大学は学生・教職員・理事会の共同体・協働体

091029

日本私立大学連盟・事例報告

K.I.T. Takeshi KUBO

86

## 大学評価委員会委員

担当理事	鈴木 典比古	国際基督教大学	大学長
委員長	工藤 教和	慶應義塾	商学部教授
委員	仙波 憲一	青山学院	国際政治経済学部 学部長
	池尾 茂	上智学院	理工学部教授
	日比谷 潤子	国際基督教大学	学務副学長・教養学部教授
	坂本 和一	立命館	大学評価室長・経済学部特別任用教授
	岡本 史紀	芝浦工業大学	常務理事・デザイン工学部 学部長
	大滝 純司	東京医科大学	医学教育学講座主任教授、医学教育推進センター副センター長

# 社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覽

(大学名ABC順)

(123大学 平成23年3月現在)

愛知大学	関西大学	武蔵大学	芝浦工業大学
亜細亜大学	関西医科大学	武蔵野大学	白百合女子大学
青山学院大学	関西学院大学	武蔵野美術大学	園田学園女子大学
跡見学園女子大学	関東学園大学	名古屋学院大学	創価大学
梅花女子大学	関東学院大学	南山大学	大正大学
文教大学	活水女子大学	日本大学	拓殖大学
中央大学	慶應義塾大学	日本女子大学	天理大学
中央大学	恵泉女学園大学	ノートルダム清心女子大学	東邦大学
獨協大学	敬和学園大学	大阪学院大学	東北学院大学
獨協医科大学	神戸女学院大学	大阪医科大学	東北公益文科大学
同志社大学	神戸海星女子学院大学	大阪女学院大学	東海大学
同志社女子大学	國學院大学	追手門学院大学	常磐大学
フェリス女学院大学	国際大学	大谷大学	東京医科大学
福岡大学	国際武道大学	立教大学	東京医療保健大学
福岡女学院大学	国際基督教大学	立正大学	東京情報大学
福岡女学院看護大学	駒澤大学	立命館大学	東京女子大学
学習院大学	皇學館大学	立命館アソシア太平洋大学	東京女子医科大学
学習院女子大学	甲南大学	龍谷大学	東京経済大学
白鷗大学	高野山大学	流通科学大学	東京農業大学
姫路獨協大学	久留米大学	流通経済大学	東京歯科大学
広島女学院大学	共立女子大学	西武文理大学	苫小牧駒澤大学
広島修道大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋大学
法政大学	京都精華大学	成城大学	東洋英和女学院大学
兵庫医科大学	京都橘大学	聖カトリック大学	東洋学園大学
兵庫医療大学	松山大学	成蹊大学	豊田工業大学
石巻専修大学	松山東雲女子大学	西南学院大学	津田塾大学
実践女子大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
上智大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
城西大学	三重中京大学	聖トマス大学	四日市大学
城西国際大学	宮城学院女子大学	仙台白百合女子大学	四日市看護医療大学
順天堂大学	桃山学院大学	専修大学	

---

大学の教育力向上を目指して・教育の質向上のためのチェックリスト・最終報告書

2011年（平成23年）3月 発行

編集者 大学評価委員会  
担当理事 鈴木 典比古  
委員長 工藤 教和

発行所 社団法人日本私立大学連盟  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館  
電話 03-3262-2463 FAX 03-3262-2497

---

無断転載はご遠慮ください。